

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
①農業研究部 (計41件)						
1243	農業研究部	<p>【水田畑地化にかかる土壌物理性改善試験の収穫調査をしました】 (2022. 2. 22発信)</p> <p>土壌物理性を一気に改善するため、水田にもみがらや杉バークを大量に(10~50㎡/10a) すき込んで栽培したキャベツの収穫調査をしました。詳細な解析はこれからですが、物理性の改善によりキャベツの生育は向上しています。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.3.25
1232	農業研究部	<p>【イチゴ「ベリーツ」の現地調査をしています】 (2022年1.31発信)</p> <p>「ベリーツ」は高評価ですが、不受精の発生により果形が乱れる果実があり、摘果やバック詰めにかかるといった課題があります。現在原因を明らかにするために、現地圃場で月に2回発生状況や生育、管理状況の調査を行っています。今後、現地で協力して発生抑制技術を確立し、より高品質で収益性の高いベリーツ栽培につなげていきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2022.2.20
1231	農業研究部	<p>【生産者にサツマイモ基腐病の説明を行いました】 (2022年1.31発信)</p> <p>サツマイモ基腐病は、県外のサツマイモ産地に壊滅的な被害をもたらし、全国的に問題となっています。幸い、県内の発生は確認されていないものの、今後の発生に備え、主産地である臼杵市及び豊後大野市にて研修会を実施したところ、生産者や種苗業者等の関係者約50名の参加がありました。当チームより、県外の発生状況や「大分県サツマイモ基腐病発生時対応指針」に基づく発生時の対応を説明するとともに、県内で生産された健全種苗の利用など予防・防除対策の徹底を呼びかけました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.2.20
1208	農業研究部	<p>【普及指導員に対する土壌肥料の専門知識に関する研修会を実施】 (2021.12.27発信)</p> <p>水田を畑地化する場合、導入品目に応じた排水対策やSDGsに沿った土づくりや施肥改善の指導が必要となっています。そこで、土づくりに関する専門的な知識・技術を習得することを目的に研修会を開催しました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.1.31
1207	農業研究部	<p>【「ベリーツ」の優良種苗生産のための炭疽病検定を行いました】 (2021.12.27発信)</p> <p>「ベリーツ」の安定生産を図るため、全農へ配布する優良種苗の元となる原種苗を農業研究部で増殖しています。現地で問題となっている炭疽病に感染していないことを確認するため、簡易検定を行った結果、検定株すべてで感染はみられませんでした。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2022.1.31
1202	農業研究部	<p>【普及指導員に対する土壌肥料の基礎知識に関する研修会を実施】 (2021.12.20発信)</p> <p>県では、水田の畑地化による園芸品目の導入を進めており、導入品目に応じた土づくりや施肥等の指導が必要となっています。そこで、土づくりに関する基礎的な知識・技術を習得することを目的に研修会を開催しました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.12.27
1201	農業研究部	<p>【白ねぎ若手生産者が農業研究部を訪問】 (2021.12.20発信)</p> <p>県内の白ねぎ若手生産者を対象に、大分白ねぎ連絡協議会「担い手部会」技術研修会が農業研究部で行われました。白ねぎ栽培で問題となる病害虫のうち、ハモグリバエ新系統や黒腐菌核病の防除対策について説明を行いました。その後、場内に設置している新型皮むき機試作機の実演を行い、改良点や仕様に関して意見交換を行いました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2021.12.27
1200	農業研究部	<p>【新型白ねぎ皮むき機試作機を場内に設置】 (2021.12.20発信)</p> <p>白ネギは収穫後の調整作業(皮むき等)に労力がかかるため、使用する機器の性能向上により省力化が図られ、さらなる規模拡大につながる可能性が期待されます。この度、新たな皮むき機の開発を行っているメーカーの協力を得て、試作機を場内に設置しました。今後、広域普及指導員と連携して生産者の意見をメーカーにフィードバックし、開発を後押ししていきます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2021.12.27

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1189	農業研究部	<p>【土壌断面調査現地研修会を開催】 (2021. 12. 13発信)</p> <p>水田を畑地化するにあたり、対象ほ場で土壌断面調査を行うことで、その圃場に最適な排水対策を選択出来ます。そこで今回、中部振興局や臼杵市役所職員を対象に、臼杵市内のほ場で土壌断面の調査方法について研修会を開催しました。今後も各地域で同様の取り組みを進めます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.12.27
1186	農業研究部	<p>【水田土壌中の可給態窒素量の簡易分析研修会を開催しました】 (2021. 12. 6発信)</p> <p>可給態窒素（地力窒素）は土壌からゆっくりと作物に供給される窒素であり、収量に与える影響が大きいといわれています。簡易な分析手法を用い、振興局でも分析できるように研修会を実施しました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.12.18
1185	農業研究部	<p>【ベリーズ生産者研修会をオンライン配信しました】 (2021. 12. 6発信)</p> <p>県内のイチゴ生産者を対象としたイチゴ栽培研修会が農業研究部で行われました。今回はオンラインでも参加できるようにし、ベリーズの特徴に合わせた栽培管理方法とこれから注意すべき病害虫の防除方法について研修を行いました。その後は来年度の親株用のランナー苗の作成方法について、実物を用いて調整方法を説明しました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2021.12.18
1184	農業研究部	<p>【「いちごクラブ」会員が農業研究部を訪問】 (2021. 12. 6発信)</p> <p>イチゴの技術や経営を学び、みんなで目標をもって良いものを作りたい！熱意にあふれる県内の女性組織「いちごクラブ」の会員5名が農業研究部を訪問しました。「ベリーズ」の特徴や栽培のポイントの他、新品種の育成方法について学んだ後、場内での栽培状況を見学しながら意見交換を行いました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2021.12.18
1147	農業研究部	<p>【現地圃場で排水対策の調査を行いました】 (2021. 10. 27発信)</p> <p>水田畑地化で湿害が発生している県内6カ所の現地圃場において、排水不良の原因調査や対策の効果検証を行っています。今回は、大分市内の圃場で地下水の現れる位置などを調査で確認して、対策内容を組み立てました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.11.18
1146	農業研究部	<p>【混合堆肥複合肥料を使用したカンショ栽培試験の収穫作業を行いました】 (2021. 10. 27発信)</p> <p>原料に堆肥を用いた新規格肥料「混合堆肥複合肥料」と一般的な化成肥料を比較するため、カンショの栽培試験を実施しています。10月18日に収穫作業を行い、今後収量調査を行います。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.11.18
1145	農業研究部	<p>【混合堆肥複合肥料を使用した水稲栽培試験の刈刈りを行いました】 (2021. 10. 27発信)</p> <p>原料に堆肥を用いた新規格肥料「混合堆肥複合肥料」と一般的な化成肥料を比較するため、水稲の栽培試験を水田グループほ場で実施しています。10月12日に刈刈りを行い、収穫した株で収量などを調査していきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.11.18
1144	農業研究部	<p>【水田畑地化圃場で有機物を用いて土壌改良する試験をしています】 (2021. 10. 27発信)</p> <p>水田にもみがらや杉パークなどを一度に大量に（10～50m³/10a程度）すき込むことによる土壌物理性の改善効果を検証するため、キャベツの栽培試験を開始しました。土壌水分の推移やキャベツの生育・収量調査を行っていきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.11.7
1143	農業研究部	<p>【お茶のスマート農業技術開発に向けて ～今年の結果を解析中～】 (2021. 10. 27発信)</p> <p>農業研究部では、茶の収穫適期を簡易に判断するため、近赤外線画像から茶葉の成分を推定する技術開発に取り組んでいます。そこで、画像解析の手法と衛星画像の活用方法について、専門家から助言をいただきました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2021.11.7

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1130	農業研究部	<p>【「大分6号」を中国で品種登録するために苗を発送しました】 (2021.10.18発信)</p> <p>2021年1月26日に国内で品種登録されたイチゴ「大分6号(ベリーツ)」の権利保護のため、中国でも品種登録を行う予定です。害虫や土等の混入がないように苗を調整してから発送し、今後中国での登録審査が行われます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2021.11.7
1129	農業研究部	<p>【炭酸ガスを用いた「ベリーツ」のハダニ対策を試験しています】 (2021.10.18発信)</p> <p>イチゴ栽培で問題となるハダニに対して、高濃度の炭酸ガスを充満させた施設内に苗を置くことで、ハダニ発生が抑えられるか試験しています。定植前の苗に処理することで、本圃へのハダニ持ち込み軽減につながります。</p>	 <small>苗入りのコンテナをシートで覆い、炭酸ガスを充満させます</small>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2021.10.29
1122	農業研究部	<p>【ベリーツの定植を行いました】 (2021.10.6発信)</p> <p>ベリーツの栽培試験を行っています。令和3年度は栽培施設ごとに①日中の管理温度②基肥設計③灌水量④炭酸ガス濃度等を変えて栽培する試験を行います。これらの試験結果をベリーツの品質と収量向上対策に役立てていきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2072	2021.10.27
1120	農業研究部	<p>【土壌水分センサーを活用した栽培試験が始まりました】 (2021.10.4発信)</p> <p>小ネギ栽培ではかん水管理が特に重要な技術です。最適な土壌水分量を把握することを目的として、かん水による土壌水分量の変化を土壌水分センサーで調査する試験を開始しました。今後は生育調査や収量調査を行う予定です。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.10.27
1115	農業研究部	<p>【豊肥管内白ねぎ全体研修会で病害虫対策を説明しました】 (2021.9.29発信)</p> <p>白ねぎの生産性向上に向け、豊後大野市及び竹田市の白ねぎ生産者を対象に研修が行われました。当チームも病害虫対策の講師として研修に出席し、今後注意が必要な病害虫について注意喚起するとともに、農業散布時の豆知識について説明を行いました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2072	2021.10.17
1114	農業研究部	<p>【土壌成分測定機器の研修会を行いました】 (2021.9.29発信)</p> <p>生産現場での異常をいち早く発見し、適切に対処するためには、土壌pHやEC、硝酸イオン濃度などの測定機器の活用は欠かせません。今回、普及指導員を対象に測定機器に関する研修会を農業研究部で行い、測定機器の種類や分析精度、使用上の注意点などを説明した後、メンテナンスの実習を行いました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.10.17
1110	農業研究部	<p>【水稲病害虫の研修で診断方法を説明しました】 (2021.9.22発信)</p> <p>水稲病害虫診断の技術向上や本年度の作況にかかる情報共有等を目的に、九州農政局、農業共済組合、JA等からも参加いただき開催しました。病害虫発生予察の取組を紹介し、ウンカ類の識別技術や現地圃場での病害虫の調査技術を実習しました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2021.10.15
1109	農業研究部	<p>【ベリーツ生産圃場のモニタリング調査結果を生産者に報告しました】 (2021.9.22発信)</p> <p>県内3カ所のベリーツ生産圃場で環境、生育、収量調査を行っています。昨年10月から今年6月までの期間で多収要因や技術の改善点を解析し、生産者、普及員を交えて意見交換を行い、増収につなげていきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2021.10.15

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1100	農業研究部	<p>【若手普及指導員等を対象に病害虫対策の専門基礎研修を行いました】 (2021.9.10発信)</p> <p>若手普及指導員等を対象に、専門的な知識を深めてもらうため、病害虫対策の専門基礎研修を行っています。今回は、水田やビーマン栽培ハウス内で病害虫を調査する際のポイントを実習した後、実験室内で顕微鏡を用いた病害虫診断を行いました。</p>	 	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2072	2021.10.9
1099	農業研究部	<p>【ドローン撮影画像解析に関する研修を行いました】 (2021.9.10発信)</p> <p>農業研究部ではドローンによる空撮画像を用いて、白ねぎ等露地野菜の迅速な生育診断技術の確立に向けた研究開発を行っています。技術開発とあわせ、今後多くの技術者に幅広い分野で技術を活用してもらうために、ドローンを実際に操縦し撮影した画像の解析まで体験できる研修会を開催しました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.10.9
1046	農業研究部	<p>【トビイロウンカに対する地域別の防除適期を予測しました】 (2021.7.27発信)</p> <p>近年、水稲に多大な被害をもたらしているトビイロウンカの被害軽減に向けた新たな取り組みとして、地域毎の平均気温をもとに、7月9日～11日に飛来したと想定して、有効積算温度から防除適期を予測しましたので、今後の防除対策の参考にしてください。詳しくは病害虫対策チームのホームページまで (http://www.jppn.ne.jp/oita)。</p>	 <p>※写真は昨年度の被害圃場です。 「昨年、一昨年に多発生した坪枯れ被害を無くするため、適期防除を！」</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2021.10.31
1047	農業研究部	<p>【大分県茶品評会が農業研究部で行われました】 (2021.7.29発信)</p> <p>大分県茶業協会主催の第54回茶品評会が開催されました。農業研究部の職員も審査員として、茶葉の形やつや等の外観をチェックした後、実際にお湯を注いで色や香り、味の審査を行いました。昨年より品質のばらつきが少なく、全体的に高品質で僅差の審査となりました。</p>		農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2021.8.20
1045	農業研究部	<p>【「ベリーツ」の採苗を行いました】 (2021.7.27発信)</p> <p>7月5日、イチゴ「ベリーツ」の採苗を行いました。9月定植に向け育苗します。育苗ハウスの天井には、赤外線反射フィルムや遮光フィルムを展張しており、今後、それぞれのフィルム下における苗の生育状況を調査します。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2021.8.4
0993	農業研究部	<p>【関係機関との連携強化～新任営農指導員研修～】 (2021.6.18発信)</p> <p>新たに営農指導に関わるJA職員28名を対象に、栽培や病害虫、土壌肥料等の技術習得と、農業研究部との連携を深めるための研修を行いました。圃場ではビーマン、トマト、白ネギ等の試験状況、病害虫の診断、土壌のサンプリング方法の説明、室内では簡易な土壌分析の実習を行いました。</p>	 	農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2021.7.15
0992	農業研究部	<p>【県オリジナルイチゴの開発を目指して～種まきを行いました～】 (2021.6.18発信)</p> <p>ポスト「ベリーツ（大分6号）」の開発を目指して、95組合せの交配を行い、採種した約7,000粒を6月に播種しました。9月に本圃に定植し、12月頃に色づいた果実の食味や外観等を評価していきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2021.7.11
0958	農業研究部	<p>【堆肥入り肥料を使ったカンショの栽培が始まりました】 (2021.5.28発信)</p> <p>混合堆肥複合肥料（堆肥入りの複合肥料）を使ったカンショの栽培試験を開始しました。この肥料は一般的な有機複合肥料より安価で、堆肥の新たな活用法を図る資源循環型肥料として期待されています。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.6.25

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0950	農業研究部	<p>【新任普及指導員を対象に病害虫対策の研修を行いました】 (2021.5.25発信)</p> <p>新たに農業の生産現場に関わる普及指導員等を対象に、専門的な知識を深めてもらうため、病害虫対策の専門基礎研修を開催しました。病害虫の防除対策や農業使用上のルール、GAPの取り組みについて説明した後、イチゴハウスで害虫観察を実習し、電子顕微鏡などの実験機器を紹介しました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2072	2021.6.11
0949	農業研究部	<p>【新任普及指導員を対象に土壌の研修を行いました】 (2021.5.25発信)</p> <p>新たに農業の生産現場に関わる普及指導員等を対象に、専門的な知識を深めてもらうため、土壌肥料の専門基礎研修を開催しました。土壌に関する全般的な座学の後、圃場内で土壌断面調査や簡易な土壌分析を実習し、実験室内では分析機器の操作を実習しました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.6.11
0927	農業研究部	<p>【基盤整備事業にともなう土壌断面調査を行いました】 (2021.5.7発信)</p> <p>農地の生産性向上に向けた基盤整備事業等では、事前に土壌調査を行い、必要な排水対策などを検討しています。水田畑地化を進める上で、重要な調査です。今回は、4月26日に宇佐市新浜地区で水利施設等保全高度化事業に伴う土壌断面調査を行いました。今後も県内で5地区の調査が計画されています。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.5.30
0926	農業研究部	<p>【おおばの場内試験が始まります】 (2021.5.7発信)</p> <p>「おおば」の病害虫対策として、天敵を活用した防除体系を構築することで、おおばの安定生産と産地の維持発展を支援します。場内試験のため、ハウスにビニール被覆を行いました。5月に定植を行う予定です。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2021.5.23
0913	農業研究部	<p>【小ネギのサイドかん水試験を行っています】 (2021.4.26発信)</p> <p>小ネギの栽培ではハウス側面に近い部分が乾くことによる生育のばらつきが課題です。そこで、頭上からのかん水に加え、ハウス側面からサイドかん水を行うことで、圃場全体の水分状態を均一にする栽培試験を行っています。今後は収量調査を行い、サイドパイプの有効性を検証します。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.5.26
0912	農業研究部	<p>【混合堆肥複合肥料の現地試験が始まります】 (2021.4.26発信)</p> <p>原料に堆肥を用いた「混合堆肥複合肥料」を使ったカンショの栽培試験の施肥を豊後大野市内の現地圃場2カ所で行いました。慣行の化学肥料を施肥した圃場と、生育や収量を比較していきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2021.5.21
0902	農業研究部	<p>【お茶のスマート農業技術開発に向けた取り組み】 (2021.4.16発信)</p> <p>農業研究部では、一番茶の摘採適期を簡易に判断する技術を開発しています。近赤外線画像を解析して茶葉の成分を推定するものです。今年度の試験を行うにあたり、県内外の関係機関と連携して技術の開発を行っています。</p>	 <p>茶葉の撮影についてアドバイスを受けています</p>	農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2021.5.9
0901	農業研究部	<p>【乾炉スラッグの適応性検証のためサトイモを定植しました】 (2021.4.16発信)</p> <p>「乾炉スラッグ」は土づくりには有用な資材ですが、品目によっては減収する場合があります。その適応性を検証しています。今年はサトイモの適応性を検証するため4月9日に栽培を開始しました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2021.5.9

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
②水田農業グループ (計97件)						
1257	水田農業グループ	<p>【水稲新品種「なつほのか」の栽培マニュアルを発行しました】 (2022. 3. 23発信)</p> <p>来年度から本格導入する水稲「なつほのか」について品種の特性や栽培上の注意点をまとめたマニュアルを発行しました。「なつほのか」は早生品種であるため、「ヒノヒカリ」と栽培方法が異なります。詳しくは当グループのホームページに掲載していますのでご覧ください (https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.6.30
1256	水田農業グループ	<p>【トラクタの操舵ガイダンスの現地実証開始】 (2022. 3. 23発信)</p> <p>大分県スマート水田農業研究会を対象としたGNSSガイダンス(トラクタ等農機の直進を高精度にガイドする機能)を大分県スマート水田農業研究会の6経営体で実証することとなりました。実証開始に当たって、水田農業グループから各経営体を訪問し、機器の設置・設定・使用方法の指導を行っています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.4.22
1255	水田農業グループ	<p>【麦採種ほの現地巡回を行いました】 (2022. 3. 23発信)</p> <p>麦の採種ほ(今年秋に播種するための種子を生産するほ場)の生育状況を確認するため、J A・振興局担当者と各地域別に巡回調査を実施しました。各地域とも概ね順調な生育となっており、3月末からほ場審査を実施し優良種子を確保します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.4.22
1251	水田農業グループ	<p>【水稲新品種「なつほのか」の栽培について研修会を行いました】 (2022. 3. 18発信)</p> <p>来年度から本格導入する水稲早生品種「なつほのか」について集荷団体や肥料・農業メーカーを対象に研修会を開催しました。作付拡大に向け、「なつほのか」の特徴や栽培する上での注意点を中心に説明し、充実した研修会となりました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.4.22
1250	水田農業グループ	<p>【自動操舵トラクターの試験走行を行いました】 (2022. 3. 9発信)</p> <p>竹田市にて、既存トラクターに後付け可能な低価格帯自動操舵機器の調整および試験走行を行いました。機器の初期設定操作には慣れが必要ですが、圃場作業において直進走行の精度は高く、生産者からは十分な評価が得られました。今後は自動操舵トラクターでの耕起、代かき作業等への活用が期待されます。</p>	 <p>自動操舵トラクタ</p>	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.4.15
1249	水田農業グループ	<p>【今年は寒い 麦の生育はやや遅れています】 (2022. 3. 9発信)</p> <p>3月3日時点の生育調査では平年より低湿少雨で推移しているため、ニシノホシ、チクゴイズミともに草丈は低く、葉齢の進展も遅いです。また幼穂長・幼穂長も短いため、出穂期が平年より遅くなる可能性があります。詳しくは当グループのホームページをご覧ください (https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)。</p>	 <p>ニシノホシ(11/19播)</p>	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.4.8
1248	水田農業グループ	<p>【大豆原種の調製作業を行っています】 (2022. 3. 9発信)</p> <p>採種農家に供給する大豆の種子(原種)の調製作業を行っています。収穫した生産物について、当水田農業グループでは生産物審査を、またJ Aでは農産物検査をそれぞれ実施しており、基準を満たしたものを種子として採用します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.4.8
1239	水田農業グループ	<p>【大豆種子の生産物審査を実施】 (2022. 2. 14発信)</p> <p>県内4地域の採種生産者により、大豆の種子生産を行っています。収穫した生産物について、当水田農業グループでは生産物審査を、またJ Aでは農産物検査をそれぞれ実施しており、基準を満たしたものを種子として採用します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.3.25

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1227	水田農業グループ	<p>【麦生育期間中の牛糞堆肥散布効果を検証中】 (2022. 1. 25発信)</p> <p>当グループでは水田の地力回復のため、生育中の麦の上から堆肥を散布する技術を開発しました。この技術により、堆肥投入可能な期間が短い二毛作地帯でも、余裕をもって堆肥を散布することができるようになり、作物の収量向上が期待できます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.2.10
1225	水田農業グループ	<p>【「えだまめ」推進にむけた作戦会議を開催】 (2022. 1. 25発信)</p> <p>佐伯市と宇佐市では、米麦大豆生産者向け水田畑地化品目として「えだまめ」を推進しています。振興局と広域普及員を交え、現地での課題整理や、試験場での試験に関する作戦会議を行いました。水田農業グループでは、「えだまめ」の産地拡大にむけ品種選定や栽培法等について次年度から試験を行っていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.2.10
1224	水田農業グループ	<p>【水稲原種の調製作業】 (2022. 1. 25発信)</p> <p>水稲採種農家に供給する種子（原種）の調製作業を実施しています。比重や篩いによる選別で充実の悪い種子等の被害粒を除去した後、最後は目視で生産物に問題がないかを確認し、袋詰めしていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.2.10
1217	水田農業グループ	<p>【種子大豆の選別調製目合わせを実施】 (2022. 1. 13発信)</p> <p>臼杵市の種子大豆生産者とJA等関係者で、種子に調製するための目合わせを行いました。今回確認した生産物は、病害虫等の被害が少なく収量量も十分確保できていました。今後、選別調製作業、審査を経て次年度栽培用の種子となります。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.2.10
1216	水田農業グループ	<p>【麦類原種の中間栽培管理作業】 (2022. 1. 13発信)</p> <p>麦採種農家に供給する種子（原種）について、3葉期を迎え中間管理作業を行っています。分けつを促し倒伏に強い麦にするため、2月下旬にかけて分けつ肥・麦踏み・土入れといった作業を行います。（写真は土入れの様子）</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.2.10
1211	水田農業グループ	<p>【麦作におけるドローン活用を検討中】 (2021. 12. 27発信)</p> <p>麦の栽培管理にドローンの活用を検討しています。定期的に場内の様々な試験ほ場を空撮し、ドローンで得られる情報を把握し、栽培管理に有用な情報の収集・分析手法を開発すべくチャレンジしています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.1.31
1204	水田農業グループ	<p>【水稲の登熟歩合を調査してます】 (2021. 12. 22発信)</p> <p>登熟歩合とは、水稲の全粒数に占める充実した粒数の割合のことで、収量構成要素の1つです。また、登熟歩合は、気象や栽培管理が水稲の収量に与えた影響を分析する1つの指標となるため、調査結果の分析に活用します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.1.21
1193	水田農業グループ	<p>【大豆作柄判定試験の収量調査を実施中】 (2021. 12. 15発信)</p> <p>大豆作柄判定試験の収量調査を行っています。調査項目は、子実重、莢数、粒径別の割合（大・中・小粒）、百粒重等です。今後は品質調査を行い、本年の気象が作柄に与えた影響を分析していきます。結果がまとまり次第、当グループのホームページに公開します。 (https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)。</p>	 莢数調査の様子	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.1.21
1188	水田農業グループ	<p>【麦類作柄判定試験のニシノホシ、チクゴイズミが出芽期を迎えました】 (2021. 12. 13発信)</p> <p>R3播麦類作柄判定試験では11月19日に播種を行いました。播種後は晴天と適度な降雨があり、出芽は平年より早く、ニシノホシは平年より5日早い12月4日、チクゴイズミは平年より8日早い12月5日に出芽期を迎えました。今後、定期的に生育調査を行い、当グループHPに生育結果を公開していきます。 HP(https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.1.14

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1183	水田農業グループ	<p>【由布市にて水稲新品種「なつほのか」の作付説明会を開催しました】 (2021.12.1発信)</p> <p>来年度から本格導入予定の水稲新品種「なつほのか」について、由布市の栽培を検討している生産者を対象に説明会を実施しました。説明会では「なつほのか」と「ヒノヒカリ」の食べ比べも行い、「なつほのか」のほうが美味しいという生産者が多数おり、作付拡大に向け充実した説明会となりました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.12.28
1182	水田農業グループ	<p>【水稲新品種「なつほのか」現地実証試験の成績検討会を開催しました】 (2021.12.1発信)</p> <p>今年度、水稲新品種「なつほのか」は県内22か所で現地実証圃を設け、実証試験を行いました。今回はJAや振興局普及員などの関係機関と生育・収量調査結果の検討会を行いました。来年からの本格導入に向け、品種特性や栽培上の注意点など活発な意見交換が行われました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.12.27
1179	水田農業グループ	<p>【麦類原種の播種を行いました】 (2021.11.26発信)</p> <p>麦採種農家に供給する種子(原種)生産の播種を行いました。今年は4品種の原種を生産します。優良な原種を確保するために、今後は随時異形株除去や病害虫防除を実施していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.12.24
1174	水田農業グループ	<p>【水稲種子の生産物審査実施中！】 (2021.11.19発信)</p> <p>県内採種圃で収穫された水稲種子について、生産物審査を実施しています。生産物審査では、優良な種子を確保するために、発芽に問題がないか異品種や病害粒の混入がないかを確認します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.12.24
1173	水田農業グループ	<p>【食味官能試験を行っています！】 (2021.11.19発信)</p> <p>水稲の品種選定では収量に加え、食味も重要な調査項目です。毎年この時期になると当グループで栽培した様々な品種を炊飯し、「外観」、「香り」、「味」、「粘り」、「硬さ」の5項目で食味評価を行っています。現行品種よりも食味の優れた品種の選定を目指しています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.12.24
1172	水田農業グループ	<p>【水稲新品種「なつほのか」の品質鑑定を行いました】 (2021.11.19発信)</p> <p>来年度から本格導入予定の水稲早生品種「なつほのか」は本年度県内22か所で現地実証圃を設け、実証試験を行っています。今回、坪刈りしたサンプルの品質鑑定を行い、全体的に粒が大きく、白く濁って見える白未熟粒が少ない結果となりました。品質の良さを改めて確認しました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.12.24
1168	水田農業グループ	<p>【麦原種栽培、播種前の堆肥散布で土作り！】 (2021.11.17発信)</p> <p>麦採種農家に供給する種子(原種)について、播種前の堆肥散布作業を実施しています。麦だけでなく、水稲・大豆の栽培前にも毎年堆肥や土壌改良材を投入し、優良な原種生産に向けた土作りをおこなっています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.12.10
1156	水田農業グループ	<p>【大豆原種の収穫作業実施中！】 (2021.11.5発信)</p> <p>大豆採種農家に供給する種子(原種)について、収穫作業を行っています。今年は「すずおとめ」「フクユタカ」の2品種を栽培しており、9月以降、高温・少雨傾向で推移したことから成熟が進み、平年より早い収穫となりました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.11.30
1148	水田農業グループ	<p>【水稲作柄速報】 (2021.10.29発信)</p> <p>作柄判定試験において「ヒノヒカリ」の収量調査を行っています。本年の穂数は平年よりやや多く、収量は平年並(平年比101)となりました。引き続き籾数や登熟歩合、玄米品質などを調査し、本年の気象が作柄に与えた影響を精査していきます。詳しくは当グループのホームページをご覧ください(https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.11.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1141	水田農業グループ	【水稲試験、上々な収穫量!!】 (2021.10.26発信) 水稲品種選定試験の収量調査を行い、6月25日移植で「つや姫」が玄米量で平年比100、「ヒノヒカリ」が同比103、「にこまる」が同比104となり、平年並の収量結果になりました。今年は9月後半から晴天に恵まれ、登熟が良好となり、収量に繋がったと考えられます。今後は品質や食味のと調査を行っています。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.11.30
1132	水田農業グループ	【水稲原種の収穫が始まりました!】 (2021.10.18発信) 水稲採種農家に供給する種子(原種)について、収穫作業が始まりました。今年は「なつほのか」「ヒノヒカリ」「にこまる」の3品種を栽培しており、早生の「なつほのか」の収穫が終わりました。倒伏や病害虫の被害もなく、良質な原種が確保できました。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.11.19
1125	水田農業グループ	【水稲早生品種「なつほのか」続々脱穀中!】 (2021.10.7発信) 暑さに強い水稲品種として来年度から本格導入予定の「なつほのか」について本年度県内22か所で現地実証圃を設け、試験を行っています。「ヒノヒカリ」よりも成熟期が早いので、9月後半から刈刈りがスタートしており、続々と脱穀作業を行っています。今後は収量調査や食味分析を行っています。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.11.5
1121	水田農業グループ	【はるみずき栽培研修会を実施】 (2021.10.6発信) 令和元年度に県の認定品種に採用された「はるみずき」(醤油用・パン用小麦)は、中津市では令和3年から栽培が始まります。そこで、地元の麦作部会主催の研修会にて、品種特性や栽培のポイントを説明しました。従来品種よりも収量が多い、早く収穫出来る、耐倒伏性に優れるといった特長があるため、生産性の向上が期待されます。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.10.27
1108	水田農業グループ	【大豆原種の病害虫防除を行いました】 (2021.9.22発信) 良質な種子生産に向け、大豆採種農家に供給する種子(原種)について、病害虫防除を実施しました。大豆では、幼莢期から子実肥大期にかけて、紫斑病やカメムシに対する防除を行います。雨が続き、作業時期の見極めが難しくなっていますが、天気の間を見て適期を逃さないように作業します。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.10.15
1107	水田農業グループ	【大豆作柄判定試験の生育調査(4回目)を行いました】 (2021.9.17発信) 作柄判定試験の播種(7月7日)から60日を経過したため、4回目の生育調査を行いました。今回は、主茎長・葉数・分枝数に加えて、葉の面積や植物体の重量を調査しました。結果は10月上旬頃に公開予定です。 (https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)	 葉面積測定の様子	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.10.15
1106	水田農業グループ	【えだまめの成熟期・収量調査を行いました】 (2021.9.17発信) 来年度から実施予定のえだまめの品種検討・栽培試験に向けて、予備試験を実施しています。複数品種の比較を行うっており、現在収穫期を迎え収量調査を実施中です。さらに収穫時期をずらすことで、品質と収量を両立した最適収穫時期の検討も行っていきます。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.10.8
1103	水田農業グループ	【特定外来生物「アレチウリ」の生態を調査中】 (2021.9.13発信) 特定外来生物「アレチウリ」は関東以北の大豆や飼料畑で甚大な被害をもたらしている雑草です。水田農業グループでは、昨年より継続して温暖な九州でのアレチウリの生態を解明するため、環境省から許可を得て隔離環境下でアレチウリを試験栽培中です。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.10.8
1093	水田農業グループ	【水稲原種の雑穂抜きを行いました】 (2021.9.3発信) 良質な種子を生産するため、水稲採種農家に供給する種子(原種)について、雑穂抜きを行いました。今回は出穂期を迎えた「ヒノヒカリ」の原種圃場にて、出穂時期や穂の高さが異なる個体がないかを確認、除去作業を行いました。雑穂抜きは、田植えから収穫までの間に4回程度行います。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1091	水田農業グループ	<p>【大豆作柄判定試験結果(1回目)の公表しました】 (2021.9.3発信)</p> <p>標準播区(7月7日播種)は、主茎長が平年を上回り、葉数及び一次分枝数は平年並で推移しています。晩播区(7月27日播種)では、主茎長、葉数および分枝数が平年を下回って推移しています。詳しくは当グループのホームページをご覧ください。(https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)</p>	 <p>標準播区 開花期(8月21日)</p>	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.30
1088	水田農業グループ	<p>【大豆原種の異形個体除去作業を行いました】 (2021.9.1発信)</p> <p>良質な種子生産をするため、大豆採種農家に供給する種子(原種)圃に対して、異形個体除去作業を実施しました。今回は主に花の色を確認しました。県内主力品種の「フクユタカ」は花が紫色ですので、色が異なる個体がないかを中心に、異形個体がないか一株ずつチェックしていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.30
1087	水田農業グループ	<p>【水稲作柄速報】 (2021.9.1発信)</p> <p>低温多湿が続いた状況での、作柄判定試験の出穂時期は「つや姫」が平年より4日遅く(写真右)、「ヒノヒカリ」も同様に遅れる見込みです(写真左)。また、いもち病が発病しやすい環境となっているため、防除を確実に実施しましょう。詳しくは当グループのホームページをご覧ください。(https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)</p>	 <p>ヒノヒカリ つや姫</p>	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.10
1083	水田農業グループ	<p>【水稲原種の穂ばらみ期防除を行いました】 (2021.8.27発信)</p> <p>良質な種子を生産するため、水稲採種農家に供給する種子(原種)について、「穂ばらみ期」の防除を行いました。この時期は水稲の重要病害虫である、いもち病、もみ枯細菌病、ウンカ類、カメムシ類などに対する徹底防除です。「穂揃期」に再度防除を行うことで、病虫害被害のない高品質な原種の確保に努めます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.30
1082	水田農業グループ	<p>【飼料用米採種圃の圃場審査を実施中】 (2021.8.27発信)</p> <p>優良な種子生産に向け、今年度から当グループが中心となり圃場審査を実施しています。飼料用米も審査対象で、本県では「夢あおば」、「みなちから」の2品種を奨励品種に定め、種子生産者が両品種の種子を生産しています。審査は主食用米同様に、圃場1枚ごとに当グループ研究員と普及指導員とで生育中に3回実施し、優良種子生産に努めています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.30
1077	水田農業グループ	<p>【水稲の試験圃場に防鳥網を設置しました】 (2021.8.25発信)</p> <p>水稲の栽培試験では、穂が出る時期が品種によって大きく異なるため、鳥の食害を防ぐことを目的として、試験圃場に防鳥網を設置しています。今回は10aと14aの圃場にそれぞれ設置しました。これにより、収量・品質が維持され、より精度の高い試験結果を得ることができます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.24
1073	水田農業グループ	<p>【大豆作柄判定試験の生育調査(2回目)を行いました】 (2021.8.18発信)</p> <p>作柄判定試験の播種(7月7日)から30日を経過したため、2回目の生育調査を行いました。今回は、主茎長・葉数・分枝数を調査しました。いずれの項目も平年を上回って生育しています。調査結果は8月末頃に公開予定です。(https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.17
1072	水田農業グループ	<p>【水稲極早生品種の採種圃場審査が始まりました】 (2021.8.18発信)</p> <p>8月5日から極早生品種(コシヒカリ・ひとめぼれ・つや姫)の採種圃場審査を実施しています。採種圃は各地域の採種生産者が栽培管理を行っており、審査は圃場1枚ごとに水田グループ研究員と普及指導員とで生育期間中に2回実施します。今回の1回目審査は出穂期に行い、異品種混入や病虫害被害等を確認し、次年度の優良種子確保に努めています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.17
1071	水田農業グループ	<p>【大豆原種の中耕・培土作業を行いました】 (2021.8.18発信)</p> <p>大豆採種農家に供給する種子(原種)について、中耕・培土作業を実施しました。中耕・培土は、排水性の向上や雑草防除、倒伏軽減などの効果をもち、大豆の安定多収栽培に向けた重要な作業です。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.17

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1061	水田農業グループ	【水稲新品種「なつほのか」の現地研修会(平坦地)を実施しました】 (2021.8.5発信) 来年度から県内に本格導入する「なつほのか」の農協・県関係者向け研修会を実施しました。今回は平坦地域における生育状況を確認するため、宇佐市内の実証ほ場と当グループで「なつほのか」の立毛の観察を行いました。また、実証試験を行っている22か所の生育状況に関する情報提供も行われ、活発な意見交換が行われました。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.10
1060	水田農業グループ	【水稲作柄判定試験幼穂調査】 (2021.8.5発信) 作柄判定試験では幼穂調査を行っており、得られたデータは本年の出穂予測に役立てます。現時点の幼穂長からは出穂は平年並であることが予想されます。また、病害虫の発生も見られません。詳しくは当グループのホームページをご覧ください (https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.9.10
1053	水田農業グループ	【小粒大豆の晩播試験を開始しました】 (2021.8.5発信) 納豆加工用小粒大豆の品種選定試験を行っています。今回は晩播試験(7月下旬播き)の播種を終えました。本県での栽培に適する品種を選定するとともに、様々な作期と栽培密度を組み合わせて、最適な栽培方法を確立していきます。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.31
1050	水田農業グループ	【大豆作柄判定試験の生育調査(1回目)を行いました】 (2021.7.29発信) 大豆の生育経過と気象条件との関係を把握するため、当グループでは定期的に生育調査を行っています。今回は大豆の主茎長や葉数を調査しました(播種後14日)。調査結果は8月末頃に公開予定です。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.31
1049	水田農業グループ	【農業大学校にて大豆品種選定試験実施中】 (2021.7.29発信) 有望な大豆系統について地域適応性を確認するために、農業大学校においても栽培試験を実施しています。本年は7月上旬に5品種系統を播種しました。出芽は良好で、今後は生育の様子を観察していきます。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.31
1048	水田農業グループ	【水稲採種ほ場の現地巡回調査を実施しています】 (2021.7.29発信) 稲・麦・大豆の良質な種子生産を行うため、JA・県振興局の協力の下、種子生産ほ場における「ほ場審査」を今年度から当グループで実施しています。水稲の出穂、穂ぞろい、成熟状況等を確認する「ほ場審査」が8月に行われるため、現在県下全域の生育状況確認や生産指導等を行っています。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.31
1044	水田農業グループ	【水稲新品種「なつほのか」施肥試験の調査を行いました】 (2021.7.27発信) 暑さに強い水稲新品種「なつほのか」の施肥試験を実施しています。現在、「なつほのか」は茎の数が最大となる「最高分け時期」を迎えており、生育調査を行いました。試験区ごとの草丈・茎数・葉色を調べ、施肥の違いによる生育データを収集しています。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.27
1042	水田農業グループ	【水稲新品種「なつほのか」の現地研修会(高標高地)を実施しました】 (2021.7.21発信) 「ヒノヒカリ」に代わる暑さに強い水稲品種として、来年度から県内に本格導入する「なつほのか」の関係者向け現地研修会を実施しました。今回は中山間地域における生育状況を確認するため、竹田市と久住高原農業高校で観察を行いました。両地区とも生育状況は順調で、7月末には宇佐市でも開催予定です。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.27
1041	水田農業グループ	【水稲原種「後代検定」を実施しています】 (2021.7.21発信) 水稲採種農家に供給する種子(原種)について「後代検定」を実施しています。後代検定では、前年度に当グループで生産した原種を実際に育て、異品種や変異種、病害粒の混入がないかを確認していきます。今年度は「つや姫」と「ヒノヒカリ」の2品種で実施しています。	 左:つや姫 右:ヒノヒカリ	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.20

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1040	水田農業グループ	<p>【水稲(移植)除草剤試験の残草調査を行いました】 (2021.7.21発信)</p> <p>水稲の移植栽培で実施している除草剤試験の効果を調べるため、雑草の抜き取り調査を行いました。各試験区で発生していた雑草を種類別に分け、重量と本数の調査を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.20
1039	水田農業グループ	<p>【水稲原種 中干しの時期に入りました】 (2021.7.21発信)</p> <p>水稲採種農家に供給する種子(原種)について、田植えから約1ヶ月が経過し、稲の成長を調節するため「中干し」の時期に入りました。スムーズな「中干し」を行うため、溝切り作業といって、水田に溝を切り、排水口に繋げて水管理を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.20
1036	水田農業グループ	<p>【水稲新品種「なつほのか」現地実証圃の巡回を行いました】 (2021.7.16発信)</p> <p>来年度より本格導入する「なつほのか」の現地実証試験の圃場巡回を行いました。今回は、北部地区(宇佐市3か所、中津市1か所)を巡回し生育状況を確認しました。いずれも順調に生育しており、8月上旬には出穂期を迎えると予想される圃場もありました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.20
1035	水田農業グループ	<p>【令和3年産の麦は豊作?】 (2021.7.16発信)</p> <p>今年の麦類作物判定試験の最終報告がまとまりました。令和3年産の麦は1月後半からの暖冬の影響でいずれの麦種も多収で品質も概ね1等でした。詳しくは当グループHPをご覧ください(https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.20
1034	水田農業グループ	<p>【大豆適期播種試験を開始しました】 (2021.7.16発信)</p> <p>品種選定および作物判定試験用大豆を播種しました。今回播種したものは、適期播種時の生育収量特性を把握するためのものです。品種選定試験では11品種系統について地域適応性を確認していきます。また、作物判定試験では定期的に生育調査し、当グループのホームページにて作物情報を公開します(https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.20
1022	水田農業グループ	<p>【除草剤試験の残草調査を行いました】 (2021.7.14発信)</p> <p>水稲の直播き栽培で実施している除草剤試験について、薬剤の効果を確認するため、残草調査を行いました。試験区に残っている雑草を抜き取り、草種、本数、重量などを調査していきます。残草調査の結果をもとに薬剤の効果を判定します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.13
1021	水田農業グループ	<p>【麦のタンパク含有率を調査しました!】 (2021.7.14発信)</p> <p>当グループでは毎年、大麦・裸麦・小麦のタンパク含有率を調査しています。特に硬質小麦(醤油やパン等の原料)においては、実需者から高いタンパク含有率が求められています。今後は測定結果を踏まえて、タンパク含有率が高まる栽培方法の確立や品種特性の把握を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.13
1020	水田農業グループ	<p>【大豆原種の播種を行いました】 (2021.7.14発信)</p> <p>大豆採種農家に供給する種子(原種)を生産するため、大豆を播種しました。今年は「フクユタカ」と「すずおとめ」の2品種を生産します。今後は優良な原種生産に向け、随時異形株除去や病害虫防除を実施していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.8.13
1013	水田農業グループ	<p>【えだまめ品種比較試験の追肥を行いました】 (2021.7.2発信)</p> <p>えだまめ品種比較試験において、5月中旬播きの「夏風香」「ゆかた娘」が開花期を迎えたため、追肥を行いました。えだまめは開花期に追肥を行うことで、収量や品質の向上が見込まれます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1011	水田農業グループ	<p>【水稲品種選定試験の田植えを行いました】 (2021.7.2発信)</p> <p>水稲品種選定試験の田植えを行いました。品種選定試験では試験精度を高めるため、様々な品種ごとに苗4本を一株として手植えします。今後は有望品種選定に向けたデータ収集を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.30
1010	水田農業グループ	<p>【「西の星」の20周年記念商品の発売報告に 三和酒類(株)が来所】 (2021.7.2発信)</p> <p>麦焼酎「西の星」の誕生20周年を記念し、三和酒類(株)の和田取締役が新商品の発売報告に来所されました。「西の星」の原料は、焼酎醸造適性の高い宇佐市産大麦「ニシノホシ」です。「ニシノホシ」は本格焼酎技術研究会と県の共同研究により選抜された品種です。水田農業グループでは、今後も高品質生産に向けた課題に取り組んでいきます。</p>	 福村チーフ 和田取締役 	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.30
1004	水田農業グループ	<p>【水稲作柄判定試験を実施中】 (2021.6.25発信)</p> <p>作柄判定試験用の水稲を移植しました。本年の作柄基礎資料とするものであり、毎年決められた日に移植をし、調査を行います。今後は当グループのホームページにて、定期的に生育情報を公開します (https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.26
1003	水田農業グループ	<p>【麦類種子の生産物審査実施中！】 (2021.6.25発信)</p> <p>県内の採種圃で収穫された麦類の種子について、生産物審査を実施しています。種子に関する制度の見直しにより、生産物審査については、今年度から水田農業グループにて一括して実施することとなっています。審査では、種子の発芽に問題がないか、異品種や病害粒の混入がないかを確認していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.26
1002	水田農業グループ	<p>【水稲「なつほのか」原系の田植えを行いました！】 (2021.6.25発信)</p> <p>水稲新品種「なつほのか」の原系(大本の種子)の田植えを行いました。これからの「なつほのか」面積拡大に向け、品種の特性をそなえた優良な種子を生産していくために、1本ずつ手植えをし、厳正な栽培管理を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.26
0997	水田農業グループ	<p>【稲原種の苗、すくすく成長中！】 (2021.6.21発信)</p> <p>採種農家に供給する稲原種(種子)の苗が大きくなってきました。今年は「なつほのか」「ヒノヒカリ」「にこまる」といった3品種の苗を合計約240枚育てています。毎日の灌水作業に加え、生育に問題がないか確認しており、6月18~23日にかけて田植えを行う予定です。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.16
0996	水田農業グループ	<p>【久住高原農業高校にて水稲「なつほのか」の生育調査を行いました】 (2021.6.21発信)</p> <p>今年度「なつほのか」の実証圃を設置している久住高原農業高校にて生徒9名と生育調査を行いました。5月18日に田植えを行った「なつほのか」は順調に生育しており、草丈は30cmを越えました。今後は生徒が中心となり、7月中旬まで1週間に1度調査を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.16
0995	水田農業グループ	<p>【麦作柄判定試験の収量結果をまとめました】 (2021.6.21発信)</p> <p>令和2年に播種した麦類の作柄判定試験の収量は11/18播種の裸麦「トヨノカゼ」が507kg/10a(平年比131)、大麦「ニシノホシ」が517kg/10a(同117)、小麦「チクゴイズミ」が542kg/10a(同113)となりました。また12/15播種のニシノホシ、チクゴイズミともに平年よりやや多収となり、全体を通して多収の年となりました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.16
0991	水田農業グループ	<p>【早播適性を持つ大豆を選定しています】 (2021.6.16発信)</p> <p>降雨による播種遅延を回避する方法として、比較的降雨の少ない6月に播種する早播栽培が注目されています。しかし、現行品種「フクユタカ」では耐倒伏性や収量、品質などが低下するため、早播適性を有する品種を選定しています。本年は10品種系統について試験栽培し、栽培性や収量性について調査していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.2

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0990	水田農業グループ	<p>【除草剤試験に向け水稲の移植を行いました】 (2021. 6. 16発信)</p> <p>水稲移植栽培用の新たな除草剤の効果や水稲への薬害評価について試験しています。農薬登録に向け、水管理・日々の圃場観察など正確なデータが必要となるため、処理区ごとにアゼ波シートで仕切りをして試験区をつくります。非常に大変な作業なため、多くの職員で作業を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.2
0989	水田農業グループ	<p>【麦類原種の調製作業が始まりました】 (2021. 6. 16発信)</p> <p>採種農家に供給する麦類原種（種子）の調製作業が始まりました。比重や篩いによる機械選別を行ったあと、最後は生産物に問題がないか目視確認し袋詰めします。小麦「はるみずき」、裸麦「ハルアカネ」、小麦「チクゴイズミ」、大麦「ニシノホシ」の4品種の順に調製していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.2
0985	水田農業グループ	<p>【水稲品種選定試験の播種を行いました】 (2021. 6. 14発信)</p> <p>水稲品種選定試験の6月25日（標準植）の田植えに向けて、播種を行いました。苗箱1枚1枚品種が異なるため、丁寧に手播きを行いました。また6月10日（早植）にも田植えを行う予定であり、現在育苗中です。順調に生育しており、田植えを待ちわびています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.30
0984	水田農業グループ	<p>【麦の収量調査中です！】 (2021. 6. 14発信)</p> <p>現在、麦の収量調査を行っています。大きめの手順は、収穫した麦を脱穀した後に乾燥させ、ワラ等を飛ばします。その後は、粒の大きさを揃えるために篩にかけて、全体重量や粒の重さ等を測定していきます。今後は得られた結果を整理し、麦の栽培指導に生かしていきます。</p>	 ふるい掛けの様子	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.30
0981	水田農業グループ	<p>【除草剤試験に向け水稲の直播きを行いました】 (2021. 6. 9発信)</p> <p>当グループでは、水稲の直播き栽培における新たな除草剤の雑草への効果と水稲への薬害評価の試験をしています。この試験は除草剤の農薬登録に重要な試験データとなるため、日々の圃場観察と正確なデータ取得が欠かせません。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.30
0977	水田農業グループ	<p>【麦の坪刈りが終盤です！】 (2021. 6. 7発信)</p> <p>当グループでは、麦に関する様々な試験（作柄判定、新品種の選定、施肥方法の検討等）を行っており、5月中旬から収穫を開始しています。麦の収穫量や品質を調査するため、「坪刈り」を行っており、1試験区ごとに鎌で手刈りを行っています。今後は脱穀や乾燥調製を行い、重量等を測定していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.30
0976	水田農業グループ	<p>【ハトムギ栽培試験の播種を行いました！】 (2021. 6. 7発信)</p> <p>水田畑地化の有望品目としてハトムギに着目して、今年度予備試験を行うこととしました。振興局で行う現地試験（由布市・豊後高田市）と連携し、課題となっている単収・品質向上と施肥の省力化を狙った試験の播種作業を行いました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.30
0975	水田農業グループ	<p>【水稲原種の播種を行いました！】 (2021. 6. 4発信)</p> <p>再来年の水稲生産に向け、当グループでは原種（種子）の播種を行いました。今年生産する原種は来年、県内の特定の圃場で増殖され、再来年に一般農家で使用されます。これから20日程度かけて苗を育て、6月下旬に田植え予定です。近年問題となっている害虫トビロウカ対策として、田植え前の苗箱施薬もしっかり実施していきます！</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.30
0963	水田農業グループ	<p>【作柄判定試験の麦が成熟期を迎えました】 (2021. 6. 2発信)</p> <p>令和2年播種の麦類作柄判定試験は暖冬の影響により、成熟期が早まり、11月18日播種の二条大麦の「ニシノホシ」で平年より9日早い令和3年5月9日、裸麦の「トヨノカゼ」が8日早い5月13日、小麦の「チクゴイズミ」は5日早い5月25日に成熟期を迎えました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0962	水田農業グループ	<p>【えだまめ品種「夏風香」「ゆかた娘」を播種しました！】 (2021. 6. 2発信)</p> <p>当グループは水田畑地化を見据えて、今年度からえだまめの品種比較試験を始めました。今回播種を行った品種は8月下旬収穫の「夏風香」「ゆかた娘」です。次回は9月中旬収穫の「雪音」「つきみ娘」の播種を行う予定です。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.30
0957	水田農業グループ	<p>【麦類原種の収穫が始まりました！】 (2021. 5. 28発信)</p> <p>採種農家に供給する麦類の種子（原種）の収穫作業が始まりました。今回は裸麦の新品種「ハルアカネ」です。倒伏や病害虫の発生もなく、良質な種子を収穫できました。周辺の宇佐平野でも大稈麦の収穫が急ピッチで進んでいます。今年は記録的に早い梅雨入りで、収穫時期の見極めが難しくなっていますが、天気の間をみて収穫作業を行っていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.25
0956	水田農業グループ	<p>【水稻新品種「なつほのか」の原系を播種しました！】 (2021. 5. 28発信)</p> <p>来年度から本格導入される水稻新品種「なつほのか」の原系（種子）の播種を行いました。純度が高く品質の良い種子を確保するために、場内や県内の採種圃で種子を増殖し、「なつほのか」普及に向けた種子を確保していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.25
0947	水田農業グループ	<p>【久住高原農業高校で水稻新品種「なつほのか」の田植えを行いました】 (2021. 5. 25発信)</p> <p>来年度から本格的な普及を予定している「なつほのか」について、今年度実証圃を設置している久住高原農業高校で田植えを行いました。久住高原農業高校では栽植密度の比較試験を行い、今後生徒とともに生育・収量調査を行っていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.18
0936	水田農業グループ	<p>【麦の新品種を現地試験しています！】 (2021. 5. 17発信)</p> <p>麦の新品種導入に向け※、中津市・宇佐市・国東市・大分市で現地試験を行っています。今回は、各振興局の普及指導員と茎や穂の長さ等を調査し、生育状況について情報交換しました。今後は刈り後に収量や品質等を調査し、品種に適した栽培方法等を検討していきます。</p> <p>※新品種：硬質小麦「はるみずき」、裸麦「ハルアカネ」</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.11
0935	水田農業グループ	<p>【麦類作柄判定試験の「ニシノホシ」が成熟期を迎えました】 (2021. 5. 17発信)</p> <p>令和2年播作柄判定試験の結果、暖冬の影響により、「ニシノホシ」は平年より9日早い5月9日に成熟期を迎えました。また、裸麦・小麦も成熟期が早まると予想され、「チクゴイズミ」は平年より1週間程度早くなる見込みです。詳しくは当グループHP https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/ の「令和2年播作柄判定試験結果（第6回）」をご覧ください。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.11
0931	水田農業グループ	<p>【水稻新品種「なつほのか」の情報紙をHPに公開しました】 (2021. 5. 13発信)</p> <p>来年度から本格的な作付けを予定している「なつほのか」について品種特性や実証栽培の様子を「なつほのか通信」としてHPに公開しました。今後、実証栽培の生育状況を中心に発行していきます。詳しくは当グループHP https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/ または水田畑地化落農課HP https://www.pref.oita.jp/soshiki/15280/ をご覧ください。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.7.9
0929	水田農業グループ	<p>【麦委託原種「ニシノホシ」の圃場審査を実施しました】 (2021. 5. 10発信)</p> <p>採種農家に供給する麦類の種子（原種）のうち、二条大麦「ニシノホシ」については、県内の農家へ生産委託しています。委託生産圃場では2回の圃場審査を実施し、異形個体や病気の発生がないか確認していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.6.11

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点


(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0922	水田農業グループ	<p>【西の星賞のWeb贈呈式に参加しました】 (2021.4.26発信)</p> <p>焼酎「西の星」の原料大麦「ニシノホシ」優良生産者に贈られる「西の星賞」(17回目)贈呈式に参加し、宇佐市の元吉堅さん(写真左)、宮本康博さん(写真右)2名の受賞を祝いました。今後も当グループは大麦「ニシノホシ」の高品質生産課題に取り組んでいきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.5.14
0921	水田農業グループ	<p>【麦の有望品種選定に向けた立毛検討】 (2021.4.26発信)</p> <p>水田農業グループでは、麦の有望品種を選定するための様々な育成系統(品種登録前のもの)の栽培試験を行っています。今回は麦の品種開発等に携わる農研機構九州沖縄農業研究センターの研究員が来所し、育成系統の特性等について情報交換を行いました。得られた情報を基に、県内に適した麦の品種選定を進めていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.5.21
0910	水田農業グループ	<p>【水稻新品種「なつほのか」の採種栽培研修会を開催】 (2021.4.20発信)</p> <p>昨年度認定品種に採用した「なつほのか」の種子生産者を対象に現地研修会を行いました。初めて栽培する品種のため生産者の関心も高く、優良種子を生産していく意識醸成が図られました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.5.31
0909	水田農業グループ	<p>【大豆種子の調製作業ラストパート！】 (2021.4.20発信)</p> <p>採種農家に供給する大豆の種子(原種)の調製作業を行っています。高品質な原種を供給するため、機械選別を行った後、全て目視で確認し、機械で取りきれなかった被害粒をひとつひとつ丁寧に除去します。6月の出荷に向けて約1,400kgの大豆を選別していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.5.19
0903	水田農業グループ	<p>【裸麦新品種「ハルアカネ」をとう精しています！】 (2021.4.16発信)</p> <p>大分県では「トヨノカゼ」に替わる裸麦品種として、倒れにくい「ハルアカネ」を裸麦認定品種としました。裸麦は穀粒の外側を削った(とう精)後に、味噌や焼酎の原料として利用されます。「ハルアカネ」の醸造適性試験のために、用途に応じたとう精を行い、実需者へサンプルを提供します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.5.17
0900	水田農業グループ	<p>【麦類原種の赤かび病防除を行っています】 (2021.4.9発信)</p> <p>採種農家に供給する麦類の種子(原種)の赤かび病防除を実施しています。赤かび病とは麦の子実にも赤いカビが生じる病気で、麦の重要病害の一つです。開花期以降2回の防除が必要で、今年は冬の温度が高く麦の生育が早いので、適期を逃さないようしっかりと防除していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.4.30
0899	水田農業グループ	<p>【麦類原種の雑種抜きを行っています】 (2021.4.9発信)</p> <p>採種農家に供給する麦類の種子(原種)が出穂期を迎え、雑種抜きを行っています。雑種抜きとは、異種や変異種の混入がない均一な原種を生産するために、生育が異なる個体を除去する作業で、収穫までに最低3回実施します。取り残しが無いよう、一畦ずつチェックします。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.4.30
0897	水田農業グループ	<p>【鳥から麦を守れ！防鳥網を設置しました】 (2021.4.8発信)</p> <p>出穂期を迎えた麦はスズメ等の鳥に狙われます。当グループでは、穂が出る時期が品種によって大きく異なるため、毎年4月上旬に鳥の食害防止を目的に、試験圃場に防鳥網を設置しています。結果、収量・品質が維持され、より精度の高い試験結果が得られます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2021.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0896	水田農業グループ	<p>【麦類作柄判定試験の麦が出穂期を迎えました！】 (2021. 4. 8発信)</p> <p>1月後半の温暖傾向により、令和2年播きの麦は生育スピードが早く、作柄判定試験の適期播（11/18播種）の出穂期は平年に比べ、トヨノカゼが10日、ニシノホシが15日、チクゴイズミが13日早くなりました。 また、晩播（12/15播種）でも、ニシノホシ、チクゴイズミともに2週間程度早くなりました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37- 1160	2021.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
③果樹グループ (計37件)						
1262	果樹グループ	<p>【ブドウの雨除けビニールの被覆を行っています】 (2022. 3. 31発信)</p> <p>ブドウの品種の多くは降雨によって病気にかかり、樹勢が落ちたり、果実品質が低下します。これを防止するために、雨が当たらないように雨除けビニールの被覆を発芽前に行います。果樹グループには長短あわせて50棟ほどの雨除け施設があり、数日かけて1棟ずつビニールをかけていきます。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.4.28
1261	果樹グループ	<p>【ナシの開花が始まっています】 (2022. 3. 31発信)</p> <p>落葉果樹チームで栽培しているナシの開花が始まっています。ナシの花は収穫期の遅い品種の方が早く咲く傾向があり、現在は晩生品種の「新高」が2部咲きくらいになっています。これから「豊水」や「幸水」へと続いていきます。ナシの開花時期は概ね平年並みとなっています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.4.28
1260	果樹グループ	<p>【ナシの植え付けを行いました】 (2022. 3. 29発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、新しいナシの仕立て方法として「流線型仕立て」を推進しています。3月25日に流線型仕立ての苗木20本を定植しました。苗木は20%のポットで1年間育成しており、長いもので3m程になっています。植栽したナシは品種や台木の比較試験に使用する予定です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.4.28
1259	果樹グループ	<p>【スモモの花粉採取を行いました】 (2022. 3. 29発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、スモモで主に交配に用いられる品種である「ハリウッド」を植栽しています。「ハリウッド」はピンク色の花びらが特徴で、「ソルダム」や「大石早生」などの主要品種よりも開花が早く、交配に適しています。3月17日に4～5部咲きとなった花を採取し、採納後、20°Cで一晩開花、花粉を得ました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.4.28
1258	果樹グループ	<p>【スモモの花が満開になっています】 (2022. 3. 29発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、10種類のスモモを栽培しています。3月中旬から暖かい日が続いたことから、スモモの開花が一気に進みました。スモモの開花は例年よりも3～5日ほど早いようですが、開花期に雨が多いと着果に影響があるため、少し心配です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.4.28
1242	果樹グループ	<p>【キウイフルーツの植え付け準備の真っ最中】 (2022. 2. 21発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、令和4年度よりキウイフルーツの栽培試験を始めます。現在、試験に使用するキウイフルーツを植付けるための準備を進めています。植付け後の生育が良くなるように、パーク堆肥などを土壌に混和しています。なかなかの重労働ですが、すくすく成長するキウイフルーツをイメージしながら頑張っています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.3.25
1241	果樹グループ	<p>【ウメの開花が始まっています】 (2022. 2. 21発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、県内で栽培される主な果樹の生育調査を行っています。例年、一番早いのがウメの開花となります。今年も1月中旬から小ウメ（竜峡）、2月上旬からは大ウメ（南高）の開花が始まっています。例年よりは1週間程度遅い状況です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.3.25
1221	果樹グループ	<p>【垣根仕立てハウスみかんが満開を迎えました】 (2022. 1. 20発信)</p> <p>12月から加温を開始した、垣根仕立てのハウスみかんが満開を迎えました。現在は花の香り漂う中、花弁落としや誘引などの管理を行っています。今後も7月上旬頃の収穫に向け適切な管理を行っていきます。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2022.2.20
1219	果樹グループ	<p>【尾崎小ミカンの課外授業を行いました】 (2022. 1. 14発信)</p> <p>津久見市立青江小学校3年生を対象に、市内蔵富にある国指定天然記念物「尾崎小ミカン先祖木」について課外授業を行いました。樹齢860年を超える日本最古の柑橘についてクイズや収穫体験を通して学び、子供達は地元の「尾崎小ミカン」をより身近に感じることができたと思います。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2022.2.13

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1205	果樹グループ	<p>【ナシの輸出拡大に光明 貯蔵ロスの低減技術】 (2021. 12. 22発信)</p> <p>大分県ではナシの海外輸出を進めており、需要期である春節(旧正月)向けでは長期貯蔵が必要となります。しかし、貯蔵中のロスが例年15~20%発生し、その最も大きな要因が果面へのカビ類の付着です。落葉果樹チームではその対策を検討しており、貯蔵前のいくつかの処理でカビの発生を大きく抑制できることが分かってきました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.1.21
1203	果樹グループ	<p>【ナシのドローン交配に挑戦】 (2021. 12. 20発信)</p> <p>当チームでは令和4年度の予備試験で、ドローンを活用したナシの人工交配試験を予定しており、12月17日にドローン製作会社の担当者と2回目の打ち合わせを行いました。今後も打ち合わせを重ねながら、令和4年4月の開花時には万全の体制で試験に取り組めるよう準備を進めています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.1.21
1187	果樹グループ	<p>【JAおいた 天瀬ブドウ部会の皆さんが来所しました】 (2021. 12. 8発信)</p> <p>日田市天瀬町のブドウ生産者で組織する天瀬ブドウ部会の役員6名が研修の一環で来所されました。当チームの試験内容の説明や園場見学を行い、ブドウ栽培上の課題等について意見交換を行いました。本年度は生育期の多雨による裂果等の品質低下が多く発生したことから、対策等についていろいろな質問が出されました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.1.31
1191	果樹グループ	<p>【醸造用ブドウ新品种のヴィンテージワイン求評会】 (2021. 12. 13発信)</p> <p>表記求評会が12月10日に安心院葡萄酒工房で開催され、果樹G研究員、北部振興局職員、葡萄酒工房職員らで、本年度産の醸造品質を確認しました。本年は8月中旬からの長雨で品質の低下が懸念されましたが、十分な品質が確保できていました。また、醸造後1年及び5年経過したヴィンテージとの比較も行い、熟成向きの品種であることが確認できました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.12.27
1190	果樹グループ	<p>【令和3年度九州・中国・四国果樹普及指導員技術研究会】 (2021. 12. 13発信)</p> <p>表記研究会が12月7、8日に水田G大会議室で開催されました。この研究会は各県の果樹担当農業革新支援専門員で構成されています。初日は会議室内で果樹の担い手対策について協議を行い、2日目に当チーム園場を案内し、試験の取り組み状況について説明しました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.12.27
1165	果樹グループ	<p>【防除用機械の安全走行・整備点検の研修を行いました】 (2021. 11. 15発信)</p> <p>11月11日、国東市で株式会社丸山製作所の職員を招聘し、スピードスプレイヤーの安全走行と整備点検の研修を行い、技能労務員など9名が参加しました。今回の研修内容を活かし、今後も防除作業にあたっては「安全安心」を遵守し、事故防止に努めていきます。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2021.12.28
1164	果樹グループ	<p>【園児が温州みかんの収穫を体験しました】 (2021. 11. 15発信)</p> <p>11月12日、国東市の南部こども園の園児23名と園の関係者5名が当グループに来所しました。採り方の説明後、実際に温州みかんの収穫を体験しました。今回の体験をきっかけに果物に興味を持って頂けることを期待しています。</p>		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2021.12.28
1160	果樹グループ	<p>【若手ブドウ生産者が来所しました】 (2021. 11. 10発信)</p> <p>11月4日に県内の若手ブドウ生産者で組織している「紫支部」の会員10名が、研修で落葉果樹チームに来所しました。今回の研修目的は根域制限栽培ということで、当チームで栽培されている二段主枝仕立やコンテナ栽培のブドウを紹介しました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.12.27
1157	果樹グループ	<p>【キウイフルーツの集荷作業を調査しています】 (2021. 11. 5発信)</p> <p>当チームではキウイフルーツの広域出荷を拡大するために、集出荷体制の改善を目的とした試験に取り組んでいます。10月23日に臼杵市佐志生のJA集荷場に集められたキウイフルーツは、大型トラックで国東市にあるJAの冷蔵庫まで輸送されました。10月29日に冷蔵庫内を確認したところ、結露が認められ、課題も見えてきました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.11.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1124	果樹グループ	<p>【晩生ナシのエース、「豊里」の収穫時期です】 (2021.10.7発信)</p> <p>大分県が育成した晩生ナシの「豊里(ほうり)」が収穫時期を迎えています。流線型仕立てで栽培されている場内の「豊里」は、一果重が1kgを越えるものが多く、糖度も13%以上と上々の仕上がりがります。収穫後冷蔵庫で貯蔵し、12月頃に出荷する予定です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.11.5
1118	果樹グループ	<p>【ゴール間近、ワイン用ブドウの育種】 (2021.10.4発信)</p> <p>9月30日、宇佐市安心院町にあるワイン醸造会社と、ワイン用ブドウの品種登録に向けた協議を行いました。この取り組みは平成24年度から行っており、この日は品種名等について協議を行いました。品種名も決まり、今年度中に6品種を新品種として出願する予定です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.11.30
1116	果樹グループ	<p>【農大生の調査指導を行いました】 (2021.9.29発信)</p> <p>9月21日、豊後大野市にある県立農業大学校の学生が、「シャインマスカット」の品質調査を行うため来所しました。今年度、2回目となる調査では、収穫後に貯蔵していた果実を用いて、レオメーターを使用した食感の分析などを行いました。調査は10月にも行われる予定です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.10.17
1105	果樹グループ	<p>【ナシ・ブドウ品評会の本審査が行われました】 (2021.9.15発信)</p> <p>9月11日、大分県なし研究会と大分県ぶどう研究会が主催するナシとブドウの品評会の本審査がパークプレイス大分で行われました。果樹グループ職員他、市場、小売り関係者等も審査に加わり、出品された果実(ナシ40点、ブドウ31点)から金、銀、銅賞を選定しました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.10.30
1104	果樹グループ	<p>【ナシ・ブドウ品評会の事前審査が行われました】 (2021.9.15発信)</p> <p>9月10日、大分県なし研究会と大分県ぶどう研究会が主催するナシとブドウの品評会の事前審査がJ A おおいた本店で行われました。事前審査では、翌日の本審査の基礎資料とするため、研究員と振興局職員により出品果実の内部品質調査(糖度など)を中心に行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.10.30
1086	果樹グループ	<p>【ナシ「あきづき」が収穫期を迎えています】 (2021.8.30発信)</p> <p>落葉果樹チームで栽培されているナシ「あきづき」が収穫期を迎えています。「あきづき」は当チームで開発した「流線型仕立て」により栽培されています。果形の揃いがよく、果肉が緻密で甘みが強いのが「あきづき」の特徴で、近年人気が高まっています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.10.31
1085	果樹グループ	<p>【大学生のインターン研修を行いました】 (2021.8.30発信)</p> <p>北部振興局生産流通部でインターン研修を行っている大学生3名が、同局担当者と併に来所しました。ナシ、ブドウを中心に落葉果樹チームでの試験研究の取り組み状況について説明を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.10.31
1084	果樹グループ	<p>【農業大学校生の研修を行いました】 (2021.8.30発信)</p> <p>豊後大野市にある県立農業大学校の2年生、2名がブドウの品質調査を行うために来所しました。糖度や酒石酸の基本的な調査方法に加え、レオメーターを使った食感の調査方法について指導を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.10.31
1094	果樹グループ	<p>【ワイン用ブドウの品質調査を行っています】 (2021.9.8発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、県内の醸造メーカーと共同で、ブドウ属在来種の「エビヅル」を育種親に用いた、ワイン用ブドウの育種を行っています。代表的なワイン用ブドウである「メルロー」よりも、色が濃く糖度の高いブドウが育成されています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.9.30
1079	果樹グループ	<p>【ナシとブドウの新品種検討会を開催しました】 (2021.8.25発信)</p> <p>果樹グループ落葉果樹チームでは公的機関や民間機関で育成されたナシとブドウの新品種を多く栽培しています。8月20日に宇佐の落葉果樹チームにおいて研究員ら9名で新品種の食味調査を行いました。これらのデータを基に、県内で普及を進める品種を決めていきます。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.9.27

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1070	果樹グループ	<p>【シャインマスカットの輸出を支援しています】 (2021. 8. 16発信)</p> <p>J Aおおいたでは、「シャインマスカット」の輸出拡大を図るための対策を進めています。8月11日に台湾に向けた出荷と併せて、輸送中の温湿度や衝撃を計測するための機器を設置しました。果樹グループは、計測機器の設置場所やデータの解析について支援しています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.9.30
1055	果樹グループ	<p>【普及員基礎技術研修を開催しました】 (2021. 8. 5発信)</p> <p>当チームでは、各振興局の若手果樹担当普及指導員の技術向上を図るための基礎技術研修の受け入れを行っています。今回は7月26日と29日の2班に分かれて、ナン誘引作業や雨よけビニールの収納作業を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.9.30
1054	果樹グループ	<p>【キウイフルーツの現地調査を行いました】 (2021. 8. 5発信)</p> <p>当チームでは本年度、キウイフルーツの県内広域出荷体制を支援するための試験を予定しています。7月30日に臼杵市の圃場を訪問し圃場状況を調査するとともに、生産者の方と試験方法等について協議を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.9.30
1018	果樹グループ	<p>【ナシの育種を行っています】 (2021. 7. 9発信)</p> <p>当チームでは、高単価が望める盆前出荷が可能な食味の優れた赤ナシの育成に取り組んでいます。今年着果したのは約200個体で、本日から収穫調査を始めました。これからも定期的に果実調査をしながら、選抜を進めていきます。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.8.30
1009	果樹グループ	<p>【シャインマスカットの収穫調査が始まりました】 (2021. 6. 30発信)</p> <p>当チームの加温ハウスで栽培されている「シャインマスカット」の収穫調査が始まりました。収穫されたのは、現在当チームが開発中の「2段仕立て」により栽培された果実です。今後定期的に収穫調査を行い、果実品質の推移や収量性等について検討を行います。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2021.7.26
0980	果樹グループ	<p>【農大生が果樹グループで研修を行いました】 (2021. 6. 9発信)</p> <p>常緑果樹専攻の学生3名に研究員が柑橘類の調査・分析方法を指導しました。今後のプロジェクト学習に役立つよう、実際に果実を使って肥大測定、品質調査（糖度・酸度）を、さらに樹容積の測定方法について実演を交えて解説しました。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2021.7.7
0979	果樹グループ	<p>【大分県研4号と不知火の葉中空素量を測定しました】 (2021. 6. 7発信)</p> <p>植物の栄養状態の指標として、体内空素量があります。農業研究部と協力して、葉中空素量の測定を従来の方法から、インドフェノール法に変更して2日→1日に短縮できました。これにより、点滴かん水方法等の施肥試験などの調査に活かす予定です。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2021.7.1
0941	果樹グループ	<p>【カンキツ樹へのドローンによる薬剤散布を実施し薬液付着状況を調査しました】 (2021. 5. 20発信)</p> <p>(一社)九州病害虫防除推進協議会の委託により、カンキツ樹にドローンを使って薬剤散布を行いました。薬液の付着状況は葉に貼付した感水試験紙（写真：黄色い用紙）で確認しました。葉表にはしっかりした薬液付着痕がありましたが、葉裏は少ない傾向でした。今後、対象病害に対する防除効果について検討する予定です。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2021.6.11
0928	果樹グループ	<p>【温州みかんの開花期を調査しました】 (2021. 5. 7発信)</p> <p>当グループではカンキツ類や落葉果樹類の発芽・開花状況を調査しています。今年の温州みかんの開花（満開期）は平年より8日以上早くなっています。結果は果樹グループのHPで公開しています。今後、果実肥大・品質の情報を提供する予定です。</p>		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2021.6.7

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
④花きグループ (計73件)						
1252	花きグループ	<p>【プリンセスリーフ研究会にて成果を発表しました】 (2022. 3. 18発信)</p> <p>染めハボタンの生産者などで組織するプリンセスリーフ研究会の実績検討会が開催され、生産販売状況について検討しました。当グループからは今年度のハボタンの研究成果を紹介しました。プリンセスリーフは市場から高い評価を受けており、来年度以降も栽培技術や品種選定などで支援を計画しています。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.3.28
1246	花きグループ	<p>【シンクロトロン光の照射試験を行いました】 (2022. 3. 2発信)</p> <p>九州シンクロトロン光研究センターにて、放射線の一種であるシンクロトロン光をキク、ホオズキ、わい性トルコギキョウ、ヤマジノギクの穂や種子などに照射しました。今後、照射した約10,000個体の中から突然変異の発現を確認して、花色や形質の優良な系統を選抜する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.3.25
1237	花きグループ	<p>【カエンボクの開花が始まりました】 (2022. 2. 9発信)</p> <p>当グループの展示温室には約150種の熱帯植物があり、現在、世界三大花木の一つと言われるカエンボクの開花が始まりました。常時一般開放しており、3月にかけて炎のような赤い花が楽しめますので、是非ご覧ください。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.2.28
1235	花きグループ	<p>【キクの新規就農予定者に研修をしました】 (2022. 2. 4発信)</p> <p>来年度からスプレーギクの栽培を開始する新規就農者に向けて、研修を行っています。今回は苗の増殖に関する研修で、苗の調製や段取りについての説明を行いました。今後も栽培の基本技術の研修を実施する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.2.18
1218	花きグループ	<p>【大分フラワーフェスティバル冬が開催されます】 (2022. 1. 14発信)</p> <p>1月15日、16日に大分市で大分県花き産業振興協議会主催による本イベントが開催されます。当グループから「花いけパトル」のコーナーで使用する梅や椿、蠟梅など沢山の花木を提供しました。観客の前で学生やプロが即興で花を生けますので是非お越しください。(詳細は、こちらまで。 https://www.pref.oita.jp/soshiki/15380/flower-fes-winter2022.html)</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.1.21
1213	花きグループ	<p>【スイートピーの品種検討をしました】 (2022. 1. 4発信)</p> <p>当グループではスイートピーのオリジナル品種を育成しています。この程、現在の生育状況や品質などについて、JA全農おいたの担当者と検討しました。優良品種については、来年度現地で試作する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.1.21
1212	花きグループ 果樹グループ	<p>【カンキツのウイルスフリー苗を作出しています】 (2022. 1. 4発信)</p> <p>ウイルスに感染したカンキツの母樹からウイルスフリー苗を作る試験をしています。温泉熱を利用して40℃に加熱したハウスで母樹を育てると、新しく伸びる芽にはウイルスが入りにくいため、約1か月後に茎の先端を切り出して台木に接ぎ木をし、ウイルスフリー苗を作る予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.1.21
1198	花きグループ	<p>【年末用にホオズキを栽培しました】 (2021. 12. 17発信)</p> <p>ホオズキの需要はこれまでお盆に限られていましたが、今回、年末需要(クリスマス・正月)に合わせて栽培しました。緑の葉を頂点にオレンジ色の実がきれいに連なっています。今後、市場や生花店の声を聞きながら、栽培の可能性を検討します。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.12.27
1197	花きグループ	<p>【花きの専門技術を指導しました】 (2021. 12. 17発信)</p> <p>広域普及指導員と連携して、花き担当の普及指導員に毎年、専門技術研修を実施しています。今回は、キクの花芽検鏡やスイートピーの栽培管理、土壌消毒などを実習しました。今後各地域での技術の活用が期待されます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.12.27

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1196	花きグループ	<p>【スイートピーの採花時期となりました】 (2021. 12. 17発信)</p> <p>9月に定植したスイートピーが順調に生育しており、本格的な採花時期となりました。来春まで品質や出荷本数を調査し、省力的な系統の育成や出荷量向上技術の確立を行います。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.12.27
1195	花きグループ	<p>【ハボタンの栽培研修をしました】 (2021. 12. 17発信)</p> <p>ハボタンの新規栽培者に栽培講習を実施しました。ハボタンの品種や栽培方法について、熱心に研修していました。今後も技術研修を適宜実施する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.12.27
1178	花きグループ	<p>【キクの新規就農予定者に研修をしました】 (2021. 11. 26発信)</p> <p>来年度からスプレーギクの栽培をスタートする新規就農者に対して、今回、親株増殖に関する実地研修研修を行ないました。今後も栽培の基本技術の研修を適宜実施する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.12.17
1177	花きグループ	<p>【キクの育種をしています】 (2021. 11. 26発信)</p> <p>キクの新品種の育成に取り組んでいます。今回、7月に定植した3,840株の中から、濃い黄色の花やわき芽の少ない株など特徴のある約50株を選抜しました。選抜した株は、来年栽培試験を行い、栽培しやすい品種を選定します。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.12.17
1176	花きグループ	<p>【試験研究アドバイザー会議を開催しました】 (2021. 11. 26発信)</p> <p>11月18日に当グループの標記会議を開催し、大学の先生等から来年度の新規課題や実施中の栽培試験に対して専門的意見をいただきました。今後意見を参考に目標達成に向けて試験を実施していきます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.12.17
1158	花きグループ	<p>【ヤマジノギクがケーブルテレビで紹介されました】 (2021. 11. 5発信)</p> <p>ヤマジノギクは大分県オリジナルの花で、この程「華つねまつ」のご協力のもと、CTBメディアのスタジオに飾っていただきました。番組内では、「旬だより」のコーナーで紹介されていますので、是非ご覧ください。 (写真提供：CTBメディア株式会社)</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.11.19
1154	花きグループ	<p>【キキョウの根を収穫しました】 (2021. 11. 2発信)</p> <p>キキョウの根は生薬として利用されており、当グループでは、杵築市でのキキョウ栽培を支援しています。この程、根の収穫・調整が行われ、東京生薬協会などを通じて出荷が予定されています。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.11.19
1153	花きグループ	<p>【キクの新規就農予定者に研修をしました】 (2021. 11. 2発信)</p> <p>来年度からスプレーギクの栽培をスタートする新規就農者に対して、研修を行なっています。今回は親株を定植する実地研修です。今後も栽培の基本技術の研修を適宜実施する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.11.19
1152	花きグループ	<p>【ヤマジノギクの育種をしています】 (2021. 11. 2発信)</p> <p>当グループでは、本県オリジナルのヤマジノギクを毎年育成しています。7月上旬に定植したヤマジノギクが開花しており、花の色や大きさ、草姿などを調査し、優良系統を選抜します。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.11.19

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1137	花きグループ	<p>【トルコギキョウの技術講習をしました】 (2021. 10. 20発信)</p> <p>視察に訪れた久住高原農業高校の草花専攻の生徒に、トルコギキョウの播種方法を指導しました。トルコギキョウの種子はとても小さいため、つまようじの先端を使って播種します。今後も栽培管理方法などについて指導する計画です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.11.12
1136	花きグループ	<p>【秋に出荷するホオズキを試験しています】 (2021. 10. 20発信)</p> <p>ホオズキは一般的にお盆の時期に出荷されますが、秋に出荷する作型を検討しています。6月に定植したホオズキが現在収穫時期を迎えており、品質や着果数等を調査して栽培技術を確立します。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.11.12
1135	花きグループ	<p>【キクの補完品目を検討しています】 (2021. 10. 20発信)</p> <p>輪ギクの消費量が減少する秋に、キクの経営を補完する代替品目を検討しています。8月下旬に定植したケイトウやペニバナ等6品目の花の開花が現在始まっています。品質や収穫時期を調査して有望な代替品目を選定する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.11.12
1134	花きグループ	<p>【高校生がフラワーアレンジメントをしました】 (2021. 10. 20発信)</p> <p>10月17日に開催された大分県農林水産祭で農業高校生による「花生けパフォーマンス」が実施されました。当グループが提供したヤマジノギクやホオズキ、ヤシの葉なども使われ、高校生とは思えないほどの見事な作品にアレンジされていました。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.11.12
1117	花きグループ	<p>【現地のヤマジノギクの出荷が始まります】 (2021. 10. 4発信)</p> <p>当グループで育成し供給したヤマジノギクが間もなく開花を向かえます。花言葉は「追憶」・「思い出」。帰省を見送っている県出身の方々にコロナ禍前のふるさとを思い出してもらいたいという気持ちを込めて、農家は入念に栽培管理を行っています。10月上旬から全国各地の市場に出荷されます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4705	2021.10.22
1113	花きグループ	<p>【遮光栽培のヤマジノギクの開花が始まりました】 (2021. 9. 27発信)</p> <p>ヤマジノギクを早期に出荷するためにシェードによる栽培を検討しています。通常では10月上旬から開花しますが、3週間ほど早い9月13日頃から開花が始まることになりました。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4705	2021.10.8
1112	花きグループ	<p>【ハボタンの栽培講習をしました】 (2021. 9. 27発信)</p> <p>染色による新たな切り花を開発するために、染めハボタンの研究会が今年発足しました。今回、当グループにてハボタンの品種や栽培に関する研修会が開催されました。年末から出荷予定のカラフルなハボタンが楽しみです。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4705	2021.10.8
1111	花きグループ	<p>【トルコギキョウの収穫が始まりました】 (2021. 9. 27発信)</p> <p>少量増地における、夏秋時期の出荷に適したトルコギキョウの品種を検討するために、9月末に34品種を定植しました。現在収穫作業をしており、切り花品質を調査し、適切な品種を選定します。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.10.8
1081	花きグループ	<p>【キキョウの花が咲きました】 (2021. 8. 25発信)</p> <p>杵築市では東京生薬協会等と連携して根を生薬として利用するためにキキョウを栽培しています。5月に、当グループで育てた苗を大分農業文化公園に定植しました。現在、鮮やかな青紫色の花が咲き始めており、秋まで楽しむことができます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4707	2021.9.10

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1080	花きグループ	<p>【新たな花の使用を提案しました】 (2021. 8. 25発信)</p> <p>花きグループで育てた特色のある花を花束などに使用できないか別府市内の生花店に相談しました。緑色が美しいコキアやシチトウイ、コンパクトなヒマワリやキキョウなどに興味を示していただき、早速花束やアレンジへの使用を検討していました。出来上がりが楽しみです。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.9.10
1074	花きグループ	<p>【わい性トルコギキョウの育種を行っています】 (2021. 8. 20発信)</p> <p>大分県オリジナルわい性トルコギキョウ「チェリービー」の新たな品種の育成に取り組んでいます。春に鉢上げした株が現在開花しています。これらの株から種子を採取し、次世代で花の色や草姿の変異が出現するか調査します。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4704	2021.8.31
1069	花きグループ	<p>【ヤマジノギクを培養しています】 (2021. 8. 16発信)</p> <p>ウイルスフリーのヤマジノギクの作出試験を行っています。5月に0.5mm程度を切り出した茎の先端が現在5cmほどに生長しています。今後ウイルスの陰性を確認して更に増殖を行う予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4702	2021.8.27
1068	花きグループ	<p>【染色した輪ギクを展示しています】 (2021. 8. 16発信)</p> <p>輪ギクの新たな楽しみ方として、染色を提案しています。この程、当グループで染色した輪ギクを使用したフラワーオブジェをパークプレイス大分で展示しています。カラフルな輪ギクをご覧ください。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4703	2021.8.27
1067	花きグループ	<p>【キクの新規就農予定者に研修をしました】 (2021. 8. 16発信)</p> <p>スプレーギクの栽培を来年度からスタートする新規就農者に対して研修を行なっています。今回は収穫方法の研修で、今後も栽培の基本技術について適宜研修を実施する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4704	2021.8.27
1066	花きグループ	<p>【大分上野丘高校の生徒が調査研究に訪れました】 (2021. 8. 16発信)</p> <p>8月5日に大分上野丘高校1年生が総合学習の一環で、温泉と試験研究の関わりについて調査に訪れました。当グループでの温泉熱を利用した花の育種や栽培試験などに非常に興味を持っていました。沢山の質問があり、将来が楽しみです。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4705	2021.8.27
1065	花きグループ	<p>【トルコギキョウの栽培研修会を開催しました】 (2021. 8. 16発信)</p> <p>本年度、久住高原農業高校の協力の下に、同校でトルコギキョウの栽培試験をしています。8月5日に県内生産者・技術者を栽培園場に集め栽培研修会を開催しました。生産者から施肥方法や経費などについて積極的な質問があり、今後の生産拡大が期待されます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.8.27
1059	花きグループ	<p>【ホオズキの販売が始まりました】 (2021. 8. 5発信)</p> <p>今年4月に定植したホオズキの収穫が始まりました。今年は気象条件などに恵まれ、ボリュームのある実がついており、昨年以上の収穫が見込まれます。お盆前まで販売していますので、当グループまでお越しください。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.8.20
1058	花きグループ	<p>【キクの収穫を行っています】 (2021. 8. 5発信)</p> <p>輪ギクの栽培では、わき芽を摘む作業に長時間を要するため、薬剤を使用してわき芽の発生を抑制する試験をしています。現在、薬剤散布後の輪ギクを収穫しており、わき芽の数や薬害などを調査して、効果の高い散布方法を明らかにします。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.8.20

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1057	花きグループ	<p>【花きの専門技術研修を行いました】 (2021. 8. 5発信)</p> <p>花きの専門的な知識と技術の習得のために、経験の浅い普及指導員に対して広域普及指導員とともに研修を行いました。キクやホオズキなどの栽培管理や病害虫防除について実習を含めて指導しました。今後の普及活動で活用される事を期待します。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.8.20
1056	花きグループ	<p>【大分農業文化公園でホオズキを栽培しています】 (2021. 8. 5発信)</p> <p>今年も日本一のホオズキのPRのために大分農業文化公園で栽培しています。8月4日から販売を兼ねた「ホオズキ市」を開催していますので、是非お越しください。イベントの詳細は同公園のHPをご覧ください。 (https://www.oita-agri-park.or.jp/event-info/)</p>	 昨年の「ホオズキ収穫体験」の様子	花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.8.20
1030	花きグループ	<p>【大分フラワーフェスティバル夏が開催されました】 (2021. 7. 14発信)</p> <p>7月10日、11日に大分市で大分県花き産業振興協議会主催による本イベントが開催されました。生け花の展示やフラワーアレンジ教室などに多数の来場がありました。「使用提案コーナー」では、当グループが染色した輪ギクを興味深く見学していました。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.30
1029	花きグループ	<p>【輪ギクを定植しました】 (2021. 7. 14発信)</p> <p>突然変異処理により新たな特徴の輪ギクを作出する試験に取り組んでいます。昨年12月に処理した輪ギクを7月中旬に定植しました。10月に花の色や形質を調査し、新しい色やわき芽の少ないキクを選抜する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.30
1028	花きグループ	<p>【露地ホオズキの害虫防除試験をしています】 (2021. 7. 14発信)</p> <p>水田畑地化の推進に向け、ホオズキの露地栽培を研究しています。露地栽培ではトマトやピーマン等を好むタバコガという害虫によりホオズキも加害され、品質低下が問題となっています。現在、農薬に頼らない防除法として防虫ネットを張った被害防止を実証しています。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.30
1027	花きグループ	<p>【ヤマジノギクを定植しました】 (2021. 7. 14発信)</p> <p>当グループでは、本県オリジナルのヤマジノギクを毎年育成しています。7月上旬に4,000本の苗を定植しました。順次、開花日や品質を調査し、優良系統を選抜する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.30
1026	花きグループ	<p>【キクの害虫防除試験をしています】 (2021. 7. 14発信)</p> <p>キクの害虫であるアザミウマは葉を食害し品質を低下させます。本虫は、日中、赤色光を照射すると定着しにくい性質があり、現在電照用赤色LEDを用いて、防除効果と省力化を検討しています。9月に効果を判定する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.30
1025	花きグループ	<p>【トルコギキョウの栽培を指導しました】 (2021. 7. 14発信)</p> <p>本年度、久住高原農業高校の草花専攻の生徒にトルコギキョウの栽培技術を指導しています。今回は摘蕾・整枝方法について指導しました。8~9月の開花時期まで定期的に栽培管理について指導を行う予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.30
1024	花きグループ	<p>【トルコギキョウを定植しました】 (2021. 7. 14発信)</p> <p>4月に播種したトルコギキョウの苗を、この程少量培地（花きグループが開発した水稲育苗箱を用いた栽培法）へ定植しました。8月~9月に開花時期と品質を調査し、夏秋時期の少量培地栽培に適した品種の選定と施肥方法を確立します。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1019	花きグループ	<p>【大分県花き展の審査を行いました】 (2021.7.9発信)</p> <p>7月9日に県主催による「第64回大分県花き展」が開催され、県内生産者から出品されたキクやホオズキなど約200点の花きを審査しました。10日、11日にiichiko総合文化センターで開催される「大分フラワーフェスティバル夏」にて一般公開されますので、是非お越しください。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.30
1015	花きグループ	<p>【キクを染色しています】 (2021.7.7発信)</p> <p>輪ギクの新たな楽しみ方を提案するために、白いキクを染色液に挿して赤や青に染色しています。7月11日、12日にiichiko総合文化センターで開催される「大分フラワーフェスティバル夏」で展示予定です。珍しいカラフルなキクをご覧ください。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.30
1001	花きグループ	<p>【ヤマジノギクの育種を行なっています】 (2021.6.23発信)</p> <p>当グループでは、ヤマジノギクの優良系統を育成するために、有良株の選抜を毎年行っています。現在、苗から摘んだ芽を培土に挿して育苗をしています。7月以降に露地に定植して開花日や品質を比較調査する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.9
1000	花きグループ	<p>【薬剤試験のためにタバコノミハムシを採集しています】 (2021.6.23発信)</p> <p>タバコノミハムシは平成29年に県内で初確認された害虫で、ホオズキの葉を食害し問題となっています。しかし、有効な農薬が分からないので、本虫を採集し薬剤試験を行ない、効果の高い農薬を確認していきます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.9
0999	花きグループ	<p>【キクの新規就農予定者に研修をしました】 (2021.6.23発信)</p> <p>来年度からスプレーギクの栽培をスタートする新規就農者に対して研修を行いました。今回は摘芯した株から発生した芽を2本に整枝する実地研修です。今後も栽培の基本技術の研修を適宜実施する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.7.9
0988	花きグループ	<p>【シンテッポウユリの収穫が始まっています】 (2021.6.16発信)</p> <p>輪ギクの消費量が減少する5～6月に、キク農家の経営を補完する品目の1つとしてシンテッポウユリを検討しています。2月上旬に定植した苗が、現在収穫時期を迎えており、品質や収穫日の調査を行なっています。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.6.30
0972	花きグループ	<p>【キキョウを定植しました】 (2021.6.3発信)</p> <p>農業文化公園にキキョウの苗を約2,000本定植しました。今年の秋頃に開花する予定で、来場者に公開します。再来年の冬に掘り上げ、杵築市と(公社)東京生薬協会が根を生薬として利用する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.6.25
0971	花きグループ	<p>【ホオズキが順調に生育しています】 (2021.6.3発信)</p> <p>4月下旬に農業文化公園に定植したホオズキが順調に生育しています。8月の収穫時期まで、普及指導員等の技術研修を兼ねて、整枝や防除等の栽培管理を続けていきます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.6.25
0970	花きグループ	<p>【ハスモンヨトウの調査をしています】 (2021.6.3発信)</p> <p>ハスモンヨトウは農作物を食害する害虫で、フェロモントラップで誘殺された成虫の数を毎日調査しています。当所がある別府市では5月中旬以降、平年より多く推移していますので、今後の発生に注意が必要です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.6.25

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0969	花きグループ	<p>【センリョウの栽培講習をしました】 (2021. 6. 3発信)</p> <p>センリョウは正月に赤い実をつける縁起物として利用される植物です。この程、生産者、JA、普及員に対して剪定や増殖方法等の栽培管理について講習しました。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.6.25
0955	花きグループ	<p>【ヤマジノギクの親株を供給しました】 (2020. 5. 26発信)</p> <p>当グループでは、毎年ヤマジノギクの親株を育成しており、5月中旬に全農おいたを通して10系統、約45,000株を生産者に供給しました。この後、生産者が3~5倍程に苗を増殖し、7月に定植する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.6.11
0954	花きグループ	<p>【久住高原農業高校にて花の栽培指導をしました】 (2020. 5. 26発信)</p> <p>昨年度から同高校草花専攻の生徒に対し学習支援の一環として花の栽培指導を行っています。この程、同高校のハウスでトルコギキョウの定植指導を行いました。今後も定期的に栽培管理指導を行う予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.6.11
0953	花きグループ	<p>【ヤマジノギクを培養しています】 (2020. 5. 26発信)</p> <p>病気に感染していないヤマジノギクの親株を得るためにウイルスフリー苗を作っています。現在、茎の先端を0.5mm程度切り出し培養しており、ウイルスの陰性を確認して増殖を行う予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.6.11
0952	花きグループ	<p>【キキョウの苗を提供しました】 (2020. 5. 26発信)</p> <p>杵築市では平成28年から(公社)東京生業協会等と連携して、生業として利用されるキキョウの栽培に取り組んでいます。この程、農業文化公園でキキョウの栽培を行なうこととなり、当グループから苗を提供しました。2年後に株を掘り取る予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.6.11
0940	花きグループ	<p>【農業系高校に少量培地栽培を紹介しました】 (2021. 5. 17発信)</p> <p>花きの少量培地栽培の紹介のために、国東高校園芸ビジネス科に栽培システムを展示しました。今後、生徒のプロジェクト活動等において、本システムの活用が期待されます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.31
0939	花きグループ	<p>【少量培地栽培の講習を行いました】 (2021. 5. 17発信)</p> <p>「少量培地栽培」という、水稲育苗箱に植える方法で栽培している花き生産者を対象に講習を行いました。現在、当グループでは10品目の花きを試験しており、参加者は各品目の生育状況や施肥方法等に興味を持って受講していました。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.31
0938	花きグループ	<p>【ハボタンの講習を行いました】 (2021. 5. 17発信)</p> <p>ハボタンは需要が年末に限られるため、染色による新たな切り花を開発しようと、染めハボタンの研究会が発足しました。この会の参加者に対して染めハボタンに適した品種や栽培方法等を紹介しました。年末以降の出荷に向けて6月から播種を開始する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.31
0937	花きグループ	<p>【温泉蒸気を利用して土壌消毒をしています】 (2021. 5. 17発信)</p> <p>当グループでは、温泉の蒸気を温室暖房や土壌消毒等に利用しています。土壌消毒では、ビニールで被覆した後6時間程度高温で処理し、温度が下がれば直ぐに定植が可能です。薬剤消毒に比べて短期間で済みます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点


(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0920	花きグループ	<p>【キクの補完品目を検討しています】 (2021. 4. 26発信)</p> <p>輪ギクの消費量が減少する4～6月に、キク農家の経営を補完する品目を検討しています。 1月に定植したキンセンカ等10品目の花の開花が現在始まっており、品質や収穫時期を調査して有望な品目を選定する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.20
0919	花きグループ	<p>【わい性トルコギキョウの育種を行なっています】 (2021. 4. 26発信)</p> <p>既存の草丈が高くない「わい性トルコギキョウ」から新たな特色のある品種を作出するために昨年、電磁波の1つであるシンクロトロン光を照射しました。 現在苗を鉢上げしており、開花時期には花の色や形、草姿などを確認して優良な個体を選抜する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.20
0918	花きグループ	<p>【ホオズキの苗の作り方を試験しています】 (2021. 4. 26発信)</p> <p>ホオズキは栽培後に地下茎を移植して、翌年の苗を作りますが、その際の掘り取りや定植の労力が負担となっています。このため種からの育苗方法を検討しています。播種時期を1月～3月にずらして苗の出来を比べたり、生育や収量を比較する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.20
0917	花きグループ	<p>【作物の品種識別を行っています】 (2021. 4. 26発信)</p> <p>花きグループではバイオテクノロジーの技術を用いて、花きの他に水稲や野菜、果樹の品種識別を行なっています。作物の品種ごとに遺伝子に異なる部位があるので、PCRで検出します。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.20
0916	花きグループ	<p>【スイートピーの育種を行なっています】 (2021. 4. 26発信)</p> <p>花きグループではスイートピーの育種を行っており、この程、生産者に対して育成中の品種を紹介しました。試作の要望があった系統は夏に種子を提供する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.20
0915	花きグループ	<p>【大分農業文化公園にホオズキを定植しました】 (2021. 4. 26発信)</p> <p>昨年、同公園で栽培したホオズキが好評でしたので、今年も2000本の苗を定植しました。今後、県関係機関等と連携して栽培管理とPRを行い、8月に収穫・販売の予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.20
0908	花きグループ	<p>【ヤマジノギクを増殖中です】 (2021. 4. 20発信)</p> <p>ヤマジノギクは花きグループが育成した品種であり、栽培を希望する農家に苗を供給しています。今年は5月中旬に約33,000本の苗を全農に有償配布する計画で、現在普及指導員と共に芽を挿して増殖作業を行なっています。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2021.5.10
0907	花きグループ	<p>【トルコギキョウの播種を行いました】 (2021. 4. 20発信)</p> <p>中山間地の品目転換需要に対応するため少量培地を利用したトルコギキョウの栽培試験を行なっています。現在、播種を行っており、6月に定植した後、9月の開花時期に品質や収量を調査する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2021.5.10
0906	花きグループ	<p>【キキョウの現地栽培をしています】 (2021. 4. 20発信)</p> <p>キキョウの根は呼吸器系の疾患に効果があるとされ、生薬として利用されています。杵築市では平成28年から(公社)東京生薬協会等と連携して栽培に取り組んでおり、当グループも支援しています。晩秋には2年経過した株を掘り取る予定です。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2021.5.10

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0895	花きグループ	<p>ぎょいこう 【御衣黄の開花が始まりました】 (2021.4.5発信)</p> <p>当グループの植物園には黄緑色の花を咲かせる桜の品種「御衣黄」が数本あります。今年は例年に比べ開花が早く3月末から始まりました。4月上旬が見頃になり、開花が進むと花の中心部から赤く色づき4月中旬頃まで色変わりが楽しめます。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2021.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑤畜産研究部		(計8件)				
1062	畜産研究部	<p>【種雄牛の精液採取】 (2021. 8. 10発信)</p> <p>当研究部の主な業務として牛の凍結精液の製造があります。擬雌台に種雄牛を乗せ、人工陰筒で採取し、量・精子数および性状などを検査をした後、希釈して凍結保存します。採取の準備や牛の運動・洗浄に時間がかかりますが、「牛の一突き」という言葉があるように擬雌台に乗るとあっという間に終わります。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2021.8.31
1052	畜産研究部	<p>【産肉能力検定（直接法）開始立会を行いました！】 (2021. 8. 2発信)</p> <p>種雄牛選抜に向け、候補となる子牛を112日間同一条件で飼養し、体形や体重増加量など発育能力をみる産肉能力検定（直接法）を開始しました。今回は令和4年度に5年に一度開催される和牛オリンピックこと第12回全国和牛能力共進会の「若雄」の区の候補となる2頭です。同区では他に2頭の候補を含む4頭から選抜された1頭が県代表として本大会に出場します。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2021.8.31
1043	畜産研究部	<p>【牛の受精卵移植講習会を行いました！】 (2021. 7. 27発信)</p> <p>牛の雌が生産に産む子牛の数は多くても10頭ほどですが、受精卵移植技術を活用すると、優秀な供卵牛から複数の受精卵を作成し受卵牛に移植することで優秀な子牛を多く生産できます。写真は雌牛の直腸に手袋をつけた手を入れ、卵巣を触診し黄体が受精卵移植に適している時期かどうかを判断しているところです。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2021.8.27
0998	畜産研究部	<p>【若手普及指導員の研修を行いました！】 (2021. 6. 21発信)</p> <p>若手普及指導員を対象に肉用牛生産や酪農などの研修を行いました。広域普及指導員や畜産研究部の職員が講師となり、座学では大分の畜産業の現状や家畜の基礎について、実習では牛の扱い方、ロープワーク、削蹄、搾乳などについて研修を実施しました。研修成果が生産者の皆さんの役に立つよう各所属でも磨きがかげられるとともに、研修のさらなる充実化も目指していきます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2021.7.16
0987	畜産研究部	<p>【超音波画像診断による肉質測定を行いました！】 (2021. 6. 16発信)</p> <p>肥育牛はと畜された後に枝肉格付を受けて枝肉成績が決まりますが、超音波画像診断装置を使うことにより、少ないストレスでと畜前に枝肉成績（脂肪交雑、ロース芯、バラ厚など）を予測することが可能です。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2021.7.2
0943	畜産研究部	<p>【牧草の再生状況調査を行いました！】 (2021. 5. 25発信)</p> <p>飼料・環境チームではイタリアンライグラスという放牧を想定した牧草の再生状況の調査を行っています。今回の調査では2つの品種の草丈を測定し病気の有無を確認しました。その後、実際にどの程度の収量があるか確認するために刈り取り調査を行います。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2021.6.11
0930	畜産研究部	<p>【産肉能力検定 直接検定法開始立会が行われました！】 (2021. 5. 10発信)</p> <p>産肉能力直接法とは、種雄牛候補の子牛たちを112日間同一条件下で飼養し、体形や体重の増加量など発育能力をみる検定です。この検定で選抜された牛は、次の現場後代検定を経て県有種雄牛に選抜されます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2021.6.11
0933	畜産研究部	<p>【期待の気高系種雄牛「松吹雪」現場後代検定で好成绩！】 (2021. 5. 13発信)</p> <p>県有種雄牛「松吹雪（玉吹雪-寿恵福-百合茂）」の後代検定肥育牛が脂肪交雑を評価するBMS ナバー値で、当県 史上最高の平均値8.75という好成绩を収めました。今後松吹雪の凍結精液は牛飼養農家向けに流通されます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2021.5.28

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑥林業研究部 (計15件)						
1238	林業研究部	<p>【中・大規模木造建築物に対応する接着重ね材の開発に取り組んでいます】 (2022. 2. 14発信)</p> <p>中・大規模木造建築物の横架材に利用することを目標に接着重ね材の開発を進めています。スギ105mm正角材をフィンガージョイントし、長さを5800mmとした材3本を積層接着した接着重ね材(3層、幅105×高300×長5800mm)の曲げ強度試験を行い、十分な強度を確認しました。さらなる長大スパンに対応可能な横架材の開発に向け、引き続き試験研究に取り組みます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.3.25
1192	林業研究部	<p>【スギ花粉の飛散量予測のため、雄花着生状況調査を行っています】 (2021. 12. 15発信)</p> <p>県内の定点スギ林20箇所から、定点あたり40本の雄花着生量を目視観察法で、A[非常に多い]、B[多い]、C[少ない]、D[無い]の4段階で判定しています。20箇所の平均値を昨年と比べると、Aの割合は低く、Bの割合は高く、Cの割合は低く、Dの割合は高くなりました。観測データは(一社)全国林業改良普及協会がとりまとめ、毎年のスギ花粉飛散予測の重要な基礎資料として活用されています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.2.2
1175	林業研究部	<p>【豊かな国の森づくり大会において、森や木の面白さ、大切さを伝えてきました】 (2021. 11. 19発信)</p> <p>県では、森林の豊かな恵みに感謝し、慈しみの心を持って森づくりに取り組んでもらえるよう「豊かな国の森づくり大会」を実施しています。この取組を次代に引き継いでいくため、好奇心溢れる子ども達を対象に、森林の働きと役割について学習活動を行いました。種や実や樹種の特長を知るための実験を通して、循環型社会に関心を持ってもらえることを期待しています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0978-37-1160	2021.12.27
1159	林業研究部	<p>【第77回九州森林学会大会にて試験研究の調査結果を報告しました。】 (2021. 11. 10発信)</p> <p>県では、施業の機械化・省力化、植栽本数の低密度化等を基本方針として、造林や育林施業の低コスト化を進めています。スギ11品種を植栽した柵築のモデル林にて、植栽時から2年生までを比較する調査を行ない、4種に比較的良好な成長が認められました。一方で同品種内でバラツキが見られることから今後、微地形等の詳細な生育条件を検討していきます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.12.27
1142	林業研究部	<p>【学生インターンシップに対応しました】 (2021. 10. 26発信)</p> <p>インターンシップとして大分県立日田林工高等学校林業科2年生2名が、林業研究機関の業務を体験しました。当研究部の林業生産・加工現場の課題に対応した試験研究を紹介し、実習として森林チームと天ヶ瀬試験地にて土壌微生物採取を行いました。また施設内の試験林や早生樹の現状、シカ害防除のツリーシェルター試験地、製材加工装置、試験設備等の見学も行いました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.11.30
1123	林業研究部	<p>【県産スギ大径材の有効利用技術について】 (2021. 10. 7発信)</p> <p>建築や家具など需要の掘り起こしに向け、大径材から品質の良い安定した材を得るために様々な試験に取り組んでいます。今回、末口直径44cmの丸太から、135mm角の心去り正角材を4本製材しました。今後、中温乾燥(日田林工高等学校の乾燥機使用)を経て、品質試験を実施し、木取りと乾燥の組み合わせについて検証していきます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.11.5
1119	林業研究部	<p>【長大スパンに対応する接着重ね材の開発に取り組んでいます】 (2021. 10. 4発信)</p> <p>長大スパン及び燃えしろ設計に対応可能な接着重ね材を開発し、非住宅分野の建築物の木造化を推進するため、試験研究に取り組んでいます。大径材、無垢材の用途拡大の手立てとして、大径材から心去り材を製材、乾燥後、製材ラミナとして継いだ接着重ね材を製作して、強度等試験を行い性能を確認します。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.11.2
1078	林業研究部	<p>【乾燥後の木材内部の割れを調査しています】 (2021. 8. 25発信)</p> <p>国産材の利用を促進する「公共建築物等の木材利用促進に関する法律」が平成22年に施行され、住宅以外の中大規模の木造建築物に大断面製材品が用いられる事例が増えています。当部では、材の品質強度を落とさない乾燥技術や品質評価の試験研究の他、外見では分からない内部割れのデータも収集しており、3次元のデジタルデータが得られるX線CTスキャナーを使用した材内部の観察も行っています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.9.27

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1012	林業研究部	<p>【県産スギ優良品種の試料木を選定しています】 (2021.7.2発信)</p> <p>林業研究部ではスギの推奨品種の見直しに向け、木材利用を考慮した材質特性調査を行っています。農林水産大臣が指定する特定母樹などが対象で、特性比較を行うために次代検定林「九大1号」(昭和46年設置)から試料木の選定作業を行いました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2147	2021.7.30
1006	林業研究部	<p>【県産スギ大径材の乾燥試験を行っています】 (2021.6.28発信)</p> <p>人工林の成長に伴い、大径材から良質で安定した材を得るため、表面や内部の割れを防ぐための乾燥試験に取り組んでいます。今月、大径材から9丁取りした正角材30本について、材表面を軟化させる蒸煮処理と中温乾燥(日田林工高等学校の乾燥機使用)を組み合わせ乾燥を実施しました。今後、材質の状態を確認していきます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.7.26
0978	林業研究部	<p>【スギ苗の乾燥耐性試験を行っています】 (2021.6.7発信)</p> <p>用土を用いずに発根させる「空中さし木法」は、多湿環境下で育苗するため、生産された苗は乾燥に弱いことが危惧されます。今年度、空中さし木法で発根したスギ苗に酢酸溶液を吸水させ、乾燥耐性が向上するか試験を開始しました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.7.1
0966	林業研究部	<p>【コウヨウザンの丸太の強度を測定】 (2021.6.2発信)</p> <p>林業研究部内で育成していたコウヨウザンから長さ2mに採材した丸太10本の重量、材積を計測し、丸太小口面をハンマーで叩いて、木材内を伝わる固有の振動を周波数(ヘルツ)で捉えて、丸太の強度を計算式で求めることができます。地上高別に強度に大きな違いがあるかを調べます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.6.30
0965	林業研究部	<p>【コウヨウザンの含水率と容積密度を測定】 (2021.6.2発信)</p> <p>地上から2mおきに厚さ5cmの円盤を採取して、年輪幅を計測し、更に中心から3年輪ごとに試験片を小割して、含水率と容積密度を測ります。この調査により、過去の樹高及び肥大成長の過程が分かるとともに材質特性がだまかにみえてきます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.6.30
0964	林業研究部	<p>【コウヨウザンの材質調査を始めました】 (2021.6.2発信)</p> <p>成長が早く省力化が見込まれるコウヨウザンの成長と材質を調査するため、林業研究部の敷地内で育成していた1本(樹高約22m、胸高直径約36cm)を伐採し、地上から2m間隔で採材しました。今後、丸太の強度や樹幹解析を行います。また切株から発生する萌芽の発生状況を観察していきます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.6.30
0946	林業研究部	<p>【食害対策用のネットの検証を行っています】 (2021.5.25発信)</p> <p>植栽したスギ苗の周囲に、食害対策として有効性を調査するため、寒冷紗を設置(高さ160cm、面積4×3.5m)しています。寒冷紗を面状に覆うと外からの視認性が低下するため、シカやウサギの侵入を妨げるかセンサーカメラを設置して検証を行っています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2021.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
きのこのグループ (計11件)						
1234	きのこのグループ	<p>【ほだ木へのビニール被覆等実施中】 (2022. 2. 2発信)</p> <p>厳冬期に芽を切ったシイタケは低温の影響で生長が止まり、その後の乾燥等により枯死するおそれがあります。きのこのグループでは、冬期に芽を切ったシイタケの成長を促進するためにほだ木へのビニール被覆やシイタケの袋掛けなどをすすめています。早期収穫による収穫作業の分散化と増収に期待できます。</p>		きのこのグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2022.3.25
1210	きのこのグループ	<p>【乾シイタケの新たな交配株の確認を行っています】 (2021. 12. 27発信)</p> <p>きのこのグループでは乾シイタケ新品種の育成に取り組んでおり、顕微鏡で交配の確認をしています。交配が確認できた菌株は、菌糸の伸長調査等で選抜していきます。選抜された菌株は栽培試験を行い、発生量や形質等の特性調査を行っています。</p>		きのこのグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2022.1.31
1209	きのこのグループ	<p>【乾シイタケ新品種の選別を行っています】 (2021. 12. 27発信)</p> <p>きのこのグループでは、本県の気象条件に適合した乾シイタケのオリジナル品種を育成し、県内各地10名の生産者に対して実用化検定試験を行っています。11月上旬から発生が始まっており、採取したシイタケの選別調査を行っています。市販化に向け、大きさや形質等を調査し、品種の特性をまとめていきます。</p>		きのこのグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2022.1.31
1171	きのこのグループ	<p>【クヌギ原木の伐採を始めました】 (2021. 11. 17発信)</p> <p>当グループでは、乾シイタケの栽培試験に使用する原木の伐採を始めました。今後、原木の伐採時期や玉切りの時期がシイタケの発生に与える影響を調査し、伐採時期等に影響されないほだ木づくりの技術を確認していきます。</p>		きのこのグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2021.12.16
1170	きのこのグループ	<p>【乾シイタケ実用化検定試験品種の発生が始まりました】 (2021. 11. 17発信)</p> <p>当グループでは、本県の気象条件に適合する乾シイタケのオリジナル品種の育成を目指しており、県内各地10名の生産者に栽培を委託して実用化検定試験を行っています。11月上旬からきのこのグループ内や試験地でシイタケの発生が始まりました。これから発生状況や品質を調査していきます。</p>		きのこのグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2021.12.16
1169	きのこのグループ	<p>【シイタケ菌糸蔓延調査を行なっています】 (2021. 11. 17発信)</p> <p>当グループでは、植菌1年目からシイタケを発生させるために早期ほだ化試験を実施しています。種駒の種類や伏せ込み方法の異なる試験区を設定して効果の検証を行っています。今回は、10月にほだ起こしたほだ木の樹皮を剥いでシイタケ菌糸の蔓延状況を調査しています。これからは発生量調査を行っています。</p>		きのこのグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2021.12.16
1096	きのこのグループ	<p>【きのこの菌株の継代培養を行っています】 (2021. 9. 8発信)</p> <p>きのこのグループでは、59種、約1000系統のきのこの菌株を保存しています。保存している菌株は種によって、2年から1年毎に新しい培地に植え替えていきます。将来的に新しい品種の開発や新たなきのこの栽培の基礎材料として使用します。</p>		きのこのグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2021.10.6
1076	きのこのグループ	<p>【ほだ木の管理を行なっています】 (2021. 8. 25発信)</p> <p>きのこのグループでは、乾シイタケの発生量増大を目指して、今年の2月に1年起こしをしたほだ木の夏から秋にかけての管理試験に取り組んでいます。人工ほだ場に立て込んだほだ木に散水や雨よけを行い、最適な水分条件等を検討していきます。</p>		きのこのグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2021.9.23

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1075	きのこグループ	<p>【廃ほだ木を利用した原木マイタケ試験を行なっています】 (2021. 8. 25発信)</p> <p>きのこグループでは、今年度から廃菌床や廃ほだ木を利用した低コストなきのこ栽培試験に取り組んでいます。6月に廃ほだ木に接種したマイタケを林内に枠を作って埋設しました。これから庇陰や散水管理を行ないます。約2ヶ月後に発生が開始します。今後発生量を調査していきます。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2021.9.23
0961	きのこグループ	<p>【乾シイタケ交配株の室内選抜試験開始】 (R3. 5. 31発信)</p> <p>きのこグループでは、大分県の気象条件に適合した乾シイタケの新品種育成に取り組んでいます。昨年度新たに交配し、保存していた菌株をシャーレに移して培養させます。今後、シイタケ菌系の伸長速度等を調査し、室内選抜試験を行っていきます。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	R3.6.30
0960	きのこグループ	<p>【伏せ込み方法を検討しています】 (R3. 5. 31発信)</p> <p>原木シイタケ栽培では、原木の伐採から搬出までの作業は危険で重労働です。当グループでは、作業の省力化に向け、平地において、良質なほだ木を効率的に育成するための伏せ込み方法の検討を予備試験として開始しました。今後、伏せ込み内部の温湿度やほだ木の活着調査を行っていきます。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	R3.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑧水産研究部 (計41件)						
1263	水産研究部	<p>【今期のモジャコの漁模様は？】 (2022. 3. 31発信)</p> <p>ブリ養殖の種苗として用いる天然稚魚(モジャコ)を採捕する「モジャコ漁」が解禁間近となり、水研部では調査船「豊洋」で表層を漂う流れ藻の数量やそれに集まったモジャコ等稚魚の出現状況についての調査を3月23日から開始しました。これらの情報は、随時、漁業者へ提供していきます。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2022.4.28
1254	水産研究部	<p>【水産研究発表会を開催】 (2022. 3. 22発信)</p> <p>3月16日、県水産技術職員総勢63名が参加し、計11課題の研究発表があり、各課題について活発な質疑や討論が行われました。この発表会は毎年行っており、水産現場が抱える課題解決や新技術開発に繋げています。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.4.30
1253	水産研究部	<p>【スーパーサイエンスハイスクール(SSH)が水産研究部で研修】 (2022. 3. 22発信)</p> <p>文科省からSSHの指定を受け先進的な理数系教育に取り組んでいる日田高校の1年生24名を受入れ、養殖技術開発や魚病診断などについて研修しました。今回の研修が契機となり、水産等の科学技術系人材の育成につながることを期待しています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2022.4.30
1247	水産研究部	<p>【完全養殖ブリが1歳になりました！～現地養殖試験～】 (2022. 3. 2発信)</p> <p>当部で種苗生産し育てた親ブリから昨年2月に卵を採り生産した種苗を、4月から養殖業者さんの生簀で試験養殖しています。生まれて1年が経ち、全長約46cm、体重約1.5kgと、天然種苗にも劣らない成長が確認され、来年には完全養殖ブリの出荷が待たれるところです。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2022.3.25
1245	水産研究部	<p>【漁業就業希望者のための漁業学校が開校中！】 (2022. 3. 2発信)</p> <p>本年度、親方に就いて漁業の技術習得を目指している2名が漁業に関する知識等を習得するため、2月24～25日、水研部で栽培漁業や漁場環境調査、水産資源調査などの講座を受講しました。“漁師”として独立出来る日が早く訪れるよう願っています。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.3.25
1223	水産研究部	<p>【未利用資源調査 ～漁獲しても出荷されない魚の有効利用～】 (2022. 1. 25発信)</p> <p>昨年6月にも情報発信したところですが、その後5回の底びき網試験操業により、比較的まとまって漁獲される小型の“イトヨリダイ”が新たな利用可能魚種として有望なことが判りました。今後、本種の生態等知見を蓄積するとともに、すり身等加工原料に利用できないか検討していきます。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2022.2.10
1215	水産研究部	<p>【漁業者自らが海底耕耘による底質改善！】 (2022. 1. 11発信)</p> <p>臼杵湾の底質改善を目的とした海底耕耘を県漁協臼杵支店が実施しています。水研部では、その耕耘効果を検証するため、定期的に湾内の泥を採取して、汚れ具合を表す硫化物や魚介類の餌となる底生生物量などを調べています。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.2.28
1206	水産研究部	<p>【天然種苗を使ったマガキ養殖試験！】 (2021. 12. 23発信)</p> <p>マガキ養殖の普及拡大に向けて、今年8月に天然採苗したシングルシード種苗を用いた養殖試験を佐伯市鶴見地区などで行っています。現在の平均重量は27g/個(試験開始時は1g/個)で、商品サイズの50g超えまで調査を継続します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.1.31

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1194	水産研究部	<p>【ワムシ培養の専門家から培養技術を伝授！】 (2021. 12. 17発信)</p> <p>魚類の種苗生産で大切なことは、孵化したの仔魚の餌として活力あるワムシを与えることです。種苗の安定生産には、このワムシの大量確保が欠かせません。そこで、(国研)水産研究・教育機構の技術者を招き、大量培養技術について直接指導していただき技術の習得を図りました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.1.31
1181	水産研究部	<p>【津久見高校の総合学習・探求活動】 (2021. 11. 26発信)</p> <p>普通科2年生13名が津久見の主要産物である養殖ブリについて、深く掘り下げて学び知識を広げるため、当研究部を訪れました。かぼすブリ等に関する研究紹介の他、分析機器を使用した魚の肉質分析を体験してもらい、今後さらなる探究心を持って地元活性化への一翼を担うことを期待します。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.12.27
1180	水産研究部	<p>【佐伯市弥生の小学生の社会見学】 (2021. 11. 26発信)</p> <p>切畑小学校5年生15名が11月18日に当研究部を見学しました。タイミング良く調査船「豊洋」が停泊していたので、船内を案内することが出来ました。みんな目を輝かせて操舵室や観測機器の説明を聞き、ドローンの飛行も間近で見学することができ、研究・調査全般に興味をもってもらえたと思います。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2021.12.27
1161	水産研究部	<p>【小学生が水研部を見学！】 (2021. 11. 10発信)</p> <p>佐伯市内の小学5年生13名が社会見学に来ました。座学や施設見学の他、ヒラメやブリの餌やりなども体験してもらい、試験研究の一端に触れていただきました。今回の見学をきっかけに魚や海に興味を持っていただけることを期待しています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.12.27
1151	水産研究部	<p>【端境期出荷を目指してブリ養殖試験を開始！】 (2021. 11. 2発信)</p> <p>養殖ブリが品薄となる「端境期(4~6月)」の安定出荷を目指して、人工的に産卵を半年ずらし生産した10cmサイズの種苗を用いた現地養殖試験を開始しました。商品サイズとなる令和5年「端境期」までの成長等を追跡調査していきます。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.12.27
1149	水産研究部	<p>【クルマエビの産卵場所はどこ？】 (2021. 10. 29発信)</p> <p>クルマエビ資源を回復させるためには、有効な資源管理を実践することが重要です。そこで、親エビ保護対策等の検討を行うため、国や愛媛県と連携して、河口干潟域などにおいて稚エビを定期的に採集し、血縁解析等を行い、産卵海域を調べています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.11.30
1140	水産研究部	<p>【「かぼすブリ」旬入り宣言！】 (2021. 10. 25発信)</p> <p>味よし・香りよし・見た目良しが特徴の「かぼすブリ」の旬入り宣言が出されました。餌に混ぜ込むカボスの最適な添加量と給餌回数を当水研部で調べ厳密な飼育基準を設定し養殖場で生産されています。「かぼすブリ」を是非、ご賞味ください。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.11.30
1131	水産研究部	<p>【海洋観測データを蓄積中！】 (2021. 10. 18発信)</p> <p>漁業調査船「豊洋」により今月は計88定点の海洋観測を実施しています。主な観測項目である水温や塩分などはCTDという計測器を海底までゆっくり下ろしながら0.1m間隔で自動測定していきます。これらデータは50年以上蓄積されており、長期変動の解析等に活用しています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム 漁業調査船「豊洋」	0972-32-2155	2021.11.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1128	水産研究部	<p>【「かぼすブリ」の美味しさが分かるかな？】 (2021.10.13発信)</p> <p>「かぼすブリ」はカボスの果汁や果皮パウダーを餌に添加して生産されています。更なる、労力とコストの削減を目指してカボスパーストを使用した現地試験に取り組んでいます。出来あがった「かぼすブリ」と通常の「ブリ」との食べ比べを行ったところ、ほとんどの人から美味しいと高評価を得ました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム 企画指導担当	0972-32-2155	2021.11.30
1127	水産研究部	<p>【安心・安全で美味しい養殖魚をPR】 (2021.10.13発信)</p> <p>安心・安全な養殖のPRに向け、大野小学校5年生の生徒さんを対象に大分県水産養殖協議会による研修会が行われました。ヒラメ陸上水槽での餌やり体験やブリ沖合養殖場の見学後、刺身、ブリカツ、あつめしなどブリのフルコース昼食会と内容は盛りだくさん。当水研部にも沢山の質問があり、養殖への理解を深めていただきました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム 企画指導担当	0972-32-2155	2021.11.30
1101	水産研究部	<p>【IoTを活用したヒラメ養殖池の自動監視】 (2021.9.10発信)</p> <p>ヒラメの陸上養殖場では、飼育水槽内への赤潮の引込みを防ぐため、赤潮シーズン等には人による夜通しの監視が必要不可欠です。そこで、労力のかからない24時間リアルタイム監視体制を構築するため、自動観測装置とスマホとを連動させた自動監視システムの開発に取り組んでいます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.10.31
1098	水産研究部	<p>【インターンシップの受入れ！】 (2021.9.10発信)</p> <p>9月7日、鹿児島大学水産学部3年の学生さん1名に赤潮調査の現場体験や施設の見学、資源に関する座学を通して、水産研究のやりがいや大分県の魅力に触れていただきました。将来、進むべき道として、県職員を考えてくれることを期待します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2021.10.31
1097	水産研究部	<p>【操業中の漁船から漁業情報を自動収集！】 (2021.9.8発信)</p> <p>クルマエビ等の効果的な資源管理の提言に向けて、小型底びき網漁船の漁網と船体に各種ロガーを装着して操業時の水深や水温、操業位置など詳細な漁業情報を収集しています。記載してもらっている漁獲日誌データと併せて資源指標となる生息密度などを解析します。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.10.31
1092	水産研究部	<p>【まき網の漁獲物調査で漁模様予測！】 (2021.9.3発信)</p> <p>イワシ・アジ・サバ類の資源状況を把握するため、早朝の魚市場での体長測定や漁獲データの収集などを行っています。隣県や国の調査データも加わって、漁模様の予測等に活用されています。漁模様の予測(漁況予報)は当研究部HPにてご覧いただけます。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.10.31
1064	水産研究部	<p>【子供達にチリモン(判子)探し体験！】 (2021.8.10発信)</p> <p>臼杵市主催の「おさかな教室」で公募した8名の小学生にチリモン(ちりめんじゃこの中に入っているタコやエビ、稚魚など小さな生き物たち)を探し、その種類を图鉴で調べてもらいました。夏休みの自由研究にするといった声も聞かれました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2021.9.30
1037	水産研究部	<p>【佐伯鶴城高校生に水産研究の魅力紹介！】 (2021.7.16発信)</p> <p>例年、佐伯鶴城高校では、佐伯の地元企業等からの参加を募り、高校1年生を対象にした「地元産業魅力説明会」を開催しています。今回、このイベントに初参加し、水産研究の面白さについて紹介させていただきました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2021.8.31
1031	水産研究部	<p>【再会を願ってトラフグ種苗の標識付け！】 (2021.7.16発信)</p> <p>トラフグの放流効果を調べるため、漁業公社と連携して全長約7.5cm、4.5千尾のトラフグの右胸びれをカットし、鶴見沖に放流しました。今後、市場調査で追跡していきますが、右胸びれのないトラフグを釣った時には、水産研究部までご連絡をお願いします。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.8.20

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1023	水産研究部	<p>【早起きも研究員の仕事です】 (2021. 7. 13発信)</p> <p>早い時には朝3時に起き、魚市場で漁獲物の全長測定や放流魚の確認などを行っています。調査から年齢組成など資源の状態や、放流効果を知ることができます。市場調査は、臼杵・津久見・佐伯・鶴見で実施しています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.8.13
0994	水産研究部	<p>【クルマエビの資源調査を実施中！】 (2021. 6. 18発信)</p> <p>天然クルマエビを定期的にサンプリングし、精密測定により、エビの成長や成熟に関する生態データの収集を行っています。今後、国等の研究機関と連携して効果的な資源管理策の提案につなげていきたいと考えています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.7.31
0986	水産研究部	<p>【ワクチン講習会を開催しました！】 (2021. 6. 14発信)</p> <p>養殖ブリの種苗導入時期を前に、養殖業者を対象に注射ワクチンの講習会を開催しました。座学と実技で正しいワクチン接種の方法を習得してもらいました。ワクチン接種によって現場での魚病被害が減少することを期待しています。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.7.31
0974	水産研究部	<p>【マガキ天然採苗試験を実施中！】 (2021. 6. 4発信)</p> <p>マガキのシングルシード養殖普及に向け、6月上旬から簡易な方法で手軽に出来るマガキの天然採苗試験を開始しました。空のペットボトルを付着基質として用いた採苗器を当研究部前の地先に設置し、7月末まで稚ガキの付着状況等を調べ、効率の良い採苗方法を開発します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2021.7.31
0973	水産研究部	<p>【養殖ブリの品質分析試験実施中！】 (2021. 6. 4発信)</p> <p>当研究部では、産卵前後の養殖ブリの脂乗りや血合いの色など肉質の特性を養殖地別に評価し、産卵が身質に与える影響等を調べています。その結果を基に、品質の良い養殖ブリの出荷時期等について検討していきます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.7.31
0968	水産研究部	<p>【未利用水産資源の発掘！】 (2021. 6. 2発信)</p> <p>底びき網漁業などの漁獲物の中には選別時に投棄されている水産資源も多くありますが、その実態はよく分かっていません。そこで、試験操業により得られた全ての漁獲物を調べ、新たに利用可能な水産資源を発掘し、漁業者の所得向上を図る取り組みを行っています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.6.30
0967	水産研究部	<p>【調査船「豊洋」が気象庁長官表彰を受賞！】 (2021. 6. 2発信)</p> <p>気象記念日である6月1日、調査船「豊洋」が、これまでの海洋観測に係る功績が認められ、気象庁長官表彰を受賞し、感謝状と記念楯をいただきました。これを励みに、今後も海洋調査に鋭意取り組みます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2021.6.30
0959	水産研究部	<p>【かぼす魚シリーズ第4弾 「かぼすトラフグ」！】 (2021. 5. 31発信)</p> <p>トラフグ生産者の皆さんと「かぼすトラフグ」の生産方法について、昨年度の研究結果をもとに意見交換を行いました。生産者の皆さんからの意見や要望を反映させて今後の試験研究に活かし、「かぼすトラフグ」がブリ、ヒラメ、ヒラマサに続くかぼす魚になることを目指します。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0951	水産研究部	<p>【かぼすヒラマサ 出荷中！】 (2021.5.26発信)</p> <p>平成27年から当研究部で生産技術開発を行ってきた「かぼすヒラマサ」の出荷が順調に行われています。味覚センサーを用いて検査したところ、「旨味コク」の成分値が高く、市場でも高く評価されています。この季節ならではの「かぼすヒラマサ」を是非、ご賞味ください。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.6.11
0948	水産研究部	<p>【緑色LED光照射による養殖ヒラメへの効果把握】 (2021.5.25発信)</p> <p>緑色LED光を照射して養殖したヒラメは、これまでの研究で高成長を示すことが分かりました。今年度は緑色LED光照射により、耐病性や健苗性など成長促進以外の効果が得られるかを検証しています。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.6.30
0945	水産研究部	<p>【調査船「豊洋」による海洋調査を実施中！】 (2021.5.25発信)</p> <p>当研究部では毎月、調査船「豊洋」による海洋調査を行っています。伊予灘・別府湾から豊後水道までの海域に69定点を設け、水温、塩分、透明度、卵稚仔、魚群等を観測し、漁業に役立つ情報「漁海況速報」を随時発信しています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.6.30
0944	水産研究部	<p>【養殖ヒラメ用新規ワクチンの開発】 (2021.5.25発信)</p> <p>当研究部では、魚病被害の低減を図る目的で大学等と連携して新たなワクチンの開発に取り組んでいます。今回、2種の試作ワクチンをヒラメに接種し、効果の検証を開始しました。試作ワクチンに効果が認められれば、実用化に向けて進むことが期待されます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.6.30
0925	水産研究部	<p>【安心・安全なヒラメ生産を目指して！】 (2021.5.7発信)</p> <p>4月26日と28日の2日間に分けて、ヒラメ養殖業者さんを対象にした講習会を開催しました。消費者に安心・安全な県産養殖ヒラメを提供するためには、種苗導入時の来歴の把握と健全性検査が重要なことを関係者間で再確認しました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.6.30
0924	水産研究部	<p>【完全養殖ブリ種苗の養殖試験を開始！】 (2021.5.6発信)</p> <p>当研究部で平成29年度に種苗生産したブリを親魚として、今年2月に早期採卵を行い生産したブリの人工種苗(約3.5万尾・6.3~8.4cmサイズ)を地元養殖業者さん協力の下、出荷サイズに成長するまで養殖試験し、成長や歩留り等を追跡していきます。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.6.30
0905	水産研究部	<p>【今年のモシヤコ漁の見通しは？】 (2021.4.20発信)</p> <p>ブリ養殖用の種苗として、ブリの稚魚を採捕する「モシヤコ漁」が解禁間近です。この期間中、水研部では調査船「豊洋」で、海面に漂う流れ藻に集まるブリ稚魚等の付着生物調査を毎年実施し、調査結果を漁業者に速報として提供しています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2021.5.31
0904	水産研究部	<p>【かぼすヒラメをもっと美味しく！】 (2021.4.19発信)</p> <p>昨年度のかぼすヒラメの給餌方法に関する研究結果をもとに、ヒラメ生産者の皆さんと意見交換を行いました。生産者の皆さんからの意見や要望を反映させて今後の試験研究に活かし、今よりも消費者の皆さんが美味しいと思う「かぼすヒラメ」生産技術の開発を目指します。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2021.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑨北部水産グループ (計50件)		※R元4/25までの組織名: 浅海・内水面グループ				
1244	北部水産グループ	<p>【アユの遡上状況を調査中！】 (2022. 2. 28発信)</p> <p>アユは秋に川で産卵し、ふ化した稚魚は海に下って越冬し、春になったら川を遡上する魚です。当グループでは、1988年から大分川、大野川で遡上アユの状況を調査して、アユの遡上時期が昔と比較して遅くなっていないか？、ふ化時期が遅れていないか？、等を継続的に調査しています。今年も大分川府内大橋下流と大野川舟本大橋上流にて調査を開始しました。5月下旬まで毎月3回調査し、漁協に結果をスピーディーに報告しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.3.25
1240	北部水産グループ	<p>【人工種苗ワカメの現地養殖試験開始！】 (2022. 2. 17発信)</p> <p>ワカメ養殖を行うことで養殖場を魚介類の産卵場・幼稚仔魚の生育の場にしたいと大分県漁協青年部香々地支部から要望を受け、当グループではワカメの人工種苗を生産しました。ワカメが活着した種系をロープに巻き付けて、1月21日から香々地地先で養殖試験を開始しました。今後、ワカメの生長を調査し、4月頃に収穫します。</p>	 人工種苗ワカメが活着した種系	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.3.25
1236	北部水産グループ	<p>【寒ヒジキ漁が終わりました】 (2022. 2. 4発信)</p> <p>1年で1日しか収穫されない幻のヒジキとして有名になった大分県漁協姫島支店の【寒ヒジキ】の収穫が、1月21日午後11時～翌22日午前7時に行われました。深夜から早朝にかけての操業でした。やわらかな新芽だけを刈取ったヒジキはシャキシャキ食感が奇跡の逸品です。なお、国見支店では同日午前2～5時の操業となりました。香々地支店では2月4日午前3～5時に操業される予定です。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.2.28
1233	北部水産グループ	<p>【ドローンを用いたカワウ飛来調査実施】 (2022. 2. 2発信)</p> <p>潜水して魚類を捕食するカワウは1日500gの魚を食べる大食漢。群れで行動し、ねぐらから15km以上離れた場所でも捕食します。本県の生息数は半減したとはいえ500尾以上いるため、アユ等の漁業被害は大きいです。さらに、鳴き声や糞による悪臭被害、糞付着の樹木の衰弱等景観悪化も問題になっていることから、当グループは、カワウの飛来数や生息状況調査を定期的の実施しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.2.20
1230	北部水産グループ	<p>【早期採卵のためマガキ母貝の加温飼育を開始！】 (2022. 1. 28発信)</p> <p>早期採卵によるマガキの人工種苗生産を実施するため、母貝の加温飼育を開始しました。水温を徐々にあげて、採卵予定の4月中旬頃までに成熟させ、産卵を行う予定です。現場への技術移転により、年内出荷が可能となり、収益の増加が期待されます。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2022.2.10
1229	北部水産グループ	<p>【母貝団地造成のためのタイラギの追跡調査を実施！】 (2022. 1. 28発信)</p> <p>母貝団地を造成するため国見地先に移植した平成30年産タイラギ人工種苗の追跡調査を1月27日に実施しました。これまで順調に生育し、産卵期には生殖巣が発達し、母貝機能を有することが確認されています。今後このタイラギを用い種苗生産を実施する予定です。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2022.2.10
1228	北部水産グループ	<p>【ミズクラゲの幼生調査を実施！】 (2022. 1. 27発信)</p> <p>近年、別府湾でミズクラゲが大発生し、大量入網による網の破損や漁獲物の商品劣化などの漁業被害が生じています。そこで12月～3月にかけて別府湾でのミズクラゲの幼生の発生場所や時期を調査し、ミズクラゲの発生予測や対策につなげていきます。</p>	 	北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2022.2.10
1226	北部水産グループ	<p>【人工種苗ヒジキの現地養殖試験開始！】 (2022. 1. 25発信)</p> <p>本県では、天然ヒジキをロープに挟み込む養殖が盛んに行われていますが、当グループでは、天然種苗に頼らない【人工種苗ヒジキ】の量産化に取り組んでいます。今期生産した人工種苗643本(主枝長: 2～5cm)をロープ5m×2本に挟み込み、各1本を宇佐市沖の干潟と国東市富来地先で現地養殖試験を開始しました。来年初夏の収穫に向け、生長や生産性などを調査します。</p>	 宇佐市長洲地先の干潟における支柱式の現地養殖試験	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.2.10

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1222	北部水産グループ	<p>【山国川漁協 放流アユ中間育成 開始】 (2022. 1. 20発信)</p> <p>山国川漁協は3月中旬に河川放流するアユの中間育成を、本耶馬溪町東谷地区にある中間育成施設で1月19日から開始しました。大分県漁業公社で生産された全長5cm (0.5g) の稚アユ2.6万尾を池入れました。今年は15万尾を育成する予定です。当グループは中間育成の指導を行っています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.1.31
1220	北部水産グループ	<p>【日田漁協 放流アユ中間育成 開始】 (2022. 1. 17発信)</p> <p>日田漁協は3月中旬に河川放流するアユの中間育成を、大山区にある中間育成施設で1月11日から開始しました。大分県漁業公社で生産された全長5cm (0.5g) の稚アユ13.4万尾を池入れました。今年は80万尾を育成する予定です。なお、昨年は3月10日以降に100万尾を放流しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.1.31
1214	北部水産グループ	<p>【ノリの収穫最盛期】 (2022. 1. 5発信)</p> <p>中津市と宇佐市の地先で養殖されているノリの収穫は12月10日から始まり、年明け最盛期を迎えています。ノリは平均13cmに生長（長いもので26cm）しています。寒風の中、2月下旬まで作業が続く、本県周防灘地先の冬の風物詩です。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.1.31
1199	北部水産グループ	<p>【ハモの加工残渣を餌としたカゴ網操業試験を実施！】 (2021. 12. 20発信)</p> <p>ハモの骨切り加工後に出る残渣（骨付きの肉片など）がタコカゴ漁業の餌として利用できるか検証するため、12月15日から宇佐市地先で操業試験を実施します。餌として通常用いるサバとハモの加工残渣で分けし、漁獲数による比較で検証します。有効であれば漁業経費の削減とともに加工処理施設の廃棄物削減が期待できます。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.1.5
1167	北部水産グループ	<p>【ヒジキ養殖はじまる】 (2021. 11. 15発信)</p> <p>本県瀬戸内海域の5地区（宇佐、富来、国東、武蔵、別府）地先で、天然ヒジキを挟み込んだ養殖が11月9日から順次始まり、5地区の養殖規模はのべ8,500mです。例年どおりであれば、収穫は来年5月の予定です。当グループでは養殖指導を行っています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.11.30
1166	北部水産グループ	<p>【養殖ノリの生育順調】 (2021. 11. 15発信)</p> <p>中津市と宇佐市の地先で始まっている養殖ノリの生長が順調です。当グループではノリ網の芽つき状況を確認しており、11月11日時点で葉体の色も回復し、葉長（1.6～2.4mm）は最大で4mmに。例年どおりであれば、初摘採は12月の予定です。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.11.30
1163	北部水産グループ	<p>【状況の異なる干潟域でのアサリの成長比較試験】 (2021. 11. 11発信)</p> <p>瀬戸内海では貧栄養化による水産資源への影響が指摘されています。当グループでは河川からの栄養塩供給の大小が、アサリの成長に及ぼす影響を明らかにするため、中津市小祝、東浜、ノリ養殖漁場および田尻地先の4か所でアサリのカゴ養殖試験を11月4日から開始しました。来年の6月中旬までの7か月間実施します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.11.30
1162	北部水産グループ	<p>【貝毒被害を防止するためマガキ等の検査を実施中】 (2021. 11. 11発信)</p> <p>海水温が低下してきて、マガキが肉厚濃厚になってきました。本県瀬戸内海域には、マガキの産地（中津、国東、杵築、日出）が多数あります。安全・安心なマガキを出荷するために当グループでは、養殖場の海水プランクトン検査やマガキの安全性を判断する検査を行っています。なお、ムール貝養殖も行われているので、同様の検査を実施しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.11.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1155	北部水産グループ	<p>【エノハの採卵が始まりました】 (2021.11.2発信)</p> <p>養殖エノハの採卵作業が10月12日から始まりました。県内の10生産者は、自家養殖用に自ら採卵・人工授精に取り組み、当グループは受精卵の水カビ防除の指導等を行っています。受精卵は採卵から約30日後にはふ化し、大分の清流で育てられ、来年の6月には全長15cm(体重40g)になります。刺身や塩焼き唐揚げ等でご賞味下さい。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.11.30
1150	北部水産グループ	<p>【山国川にて、アユ産卵場調査を実施！】 (2021.10.29発信)</p> <p>山国川のアユ資源を増大させるために、産卵環境の把握と産卵状況を確認する調査を10月20～28日に平成大堰下流、恒久橋、山移川で実施しました。なお、山国川漁協には漁場診断調査結果も併せて報告します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.11.30
1139	北部水産グループ	<p>【ノリ種付けが始まりました】 (2021.10.21発信)</p> <p>本県豊前海の冬の風物詩『ノリ養殖』が始まりました。中津市(5経営体)と宇佐市(2経営体)の地先で、色鮮やかなノリ網30枚を重ねて海面に張り込み、ノリの種(糸状体)が入り込んだカキ殻をぶら下げて、ノリ網に種を付ける野外採苗作業が10月20～23日に行われています。当グループでは、ノリ網の芽つきや育成状況を確認しており、例年であれば、初摘採は12月上旬の予定です。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.11.20
1138	北部水産グループ	<p>【アサリの人工種苗生産を実施！】 (2021.10.21発信)</p> <p>秋の産卵シーズンを迎え、アサリの種苗生産を実施しました。親貝を水温15℃に20分間浸漬した後、1時間かけて25℃まで昇温し、温度刺激を与えることで産卵を誘発し、今回3億3千万粒の卵を得ました。これから殻長1mm以上の稚貝にまで育成し、来春以降の増養殖試験に利用します。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.11.20
1095	北部水産グループ	<p>【記録的大雨に耐えたアユ(三隈川アユ生息状況調査)】 (2021.9.8発信)</p> <p>8月の記録的な大雨の影響が心配で、日田漁協管内の三隈川(1か所)大山川(3か所)でアユの生息状況調査を9月1日に実施しました。両河川ともアユが藻類を食べた痕跡(ハミアト)や、元気よく泳いでいるアユを多数確認できました。なお、晴天に恵まれ太公望も多かったです。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.11.30
1090	北部水産グループ	<p>【人工種苗ヒジキの海面育苗を開始！】 (2021.9.1発信)</p> <p>当グループでは、ヒジキ人工種苗を括着させた『ビニロン製ロープ』『ポリエステル製不織布』および『クレモナ糸の種糸』を7月7日～8月25日にかけて、宇佐市長洲、豊後高田市香々地および国東市来浦地区の各漁港内で海面育苗を開始しました。現時点で全長0.8～2.2mmの種苗218,411本(昨年の同時期では全長0.3～2.7mmの種苗89,738本でした)。種苗が5cmに到達する11月から現地養殖試験(推定養殖規模186m)に供します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.11.30
1089	北部水産グループ	<p>【ヒジキ養殖で使用したロープの再利用化！】 (2021.9.1発信)</p> <p>今年5月に収穫した養殖ヒジキのロープに残っている根っ子の部分(座)を再利用する試験をしています。夏期の高水温を中心に座や新芽の消失を防止するため、今回、ヒジキの生態を考慮して宇佐、香々地、富来の3地区の潮間帯で管理し、12月から始める沖での本養殖に再利用可能か調査します。本技術が確立されれば養殖ヒジキの生産効率が向上し、生産量拡大につながります。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.11.30
1126	北部水産グループ	<p>【キジハタの標識放流を実施しました！】 (2021.10.8発信)</p> <p>10月7日、キジハタの放流効果を把握するため、標識として二枚ある腹ビシの左方をカットし、全長85mmの種苗3,000匹を姫島地先に放流しました。沿岸域での定着性が高く、効果が期待されています。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.10.26

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1102	北部水産グループ	<p>【豊前海でアサリの被覆網放流試験を開始！】 (2021.9.10発信)</p> <p>アサリの増殖方法として杵築市守江湾で効果のあった、網でアサリが生息する干潟を被覆する方法が豊前海でも有効か検証するため、9月7日から試験を開始しました。当グループで生産した殻長3mmのアサリを4mm目合と9mm目合の網で被覆し、生存量の比較試験を実施するとともに、生産サイズまで生育するか追跡します。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.9.30
1051	北部水産グループ	<p>【山国川にて、漁場診断調査を実施！】 (2021.8.2発信)</p> <p>山国川のアユ漁獲量の維持増大に向けた方策を漁協に提言するため、7月27日に新山国大橋上流で透明度、巨石率、浮き石率およびアユが藻類を食べた痕跡（ハミアト）などアユの生残と関係する漁場環境やアユ生息状況を調査しました。9月上旬までにあと7か所を調べます。</p>	 アユがコケを食べた痕跡	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.8.31
1038	北部水産グループ	<p>【キジハタの種苗生産を行うため、人工受精を実施しました！】 (2021.7.19発信)</p> <p>栽培漁業対象種として有望視されているキジハタの種苗生産技術を開発するため、生殖腺の発達した親魚から採卵・採精を行い、人工受精を行いました。今回約10万個の卵を採取し、そのうち2万3千個の受精卵を得ることができました。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.8.5
1033	北部水産グループ	<p>【マダコ種苗生産を実施】 (2021.7.16発信)</p> <p>マダコ資源の維持増大に向け、漁獲時に得られる受精卵の利用を進めています。陸上水槽で自然ふ化させたマダコの幼生1,600尾を、水流など生育環境を整えた0.5t水槽2面で6月19日から飼育し、7月13日の24日齢で生残率71%、1,132尾の稚マダコを生産することができました。なお、今回の研究手法は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行ったものです。今後も、現場普及に向け技術改善を進めます。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.8.20
1032	北部水産グループ	<p>【人工種苗クロメの藻場造成】 (2021.7.16発信)</p> <p>藻場の減少を危惧する大分県漁協からの要望に応じて、当グループは人工種苗クロメを活着させたレンガブロック等を姫島村地先の水深5mの海底に、植食性魚類の食害防除の鉄筋カゴをかぶせて設置しました。今後、定期的に増殖効果を調査していきます。</p>	 7月13日に造成	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.8.20
1017	北部水産グループ	<p>【人工種苗ヒジキの生産を開始】 (2021.7.9発信)</p> <p>本県9地区の海岸で採取したヒジキ母藻を用いて、5月12日～7月3日に種苗生産を行いました。養殖の大規模化に対応するため、得られた受精卵を、従来使用してきたロープに加え、不織布および糸など新たな養殖用資材に播種しました。漁港内での海面育苗を経て11月には種苗が活着した資材3,100m相当を沖に出して養殖します（昨年度：80m）。</p>	 ロープに活着したヒジキ種苗	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.8.30
1016	北部水産グループ	<p>【土用丑の日は宇佐の『どぜう重』を】 (2021.7.7発信)</p> <p>また一つ、逸品が誕生しました。当グループが技術協力し、温泉水で飼育した『宇佐の温泉どぜう』のテイクアウト商品（かば焼き重）が、道の駅いんないで販売されています（毎週金～日曜日に数量限定）。『ウナギ1匹、ドジョウ1匹』に例えられるように、ウナギに匹敵する栄養価の高いドジョウを食べて、酷暑の夏を乗り切りましょう。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.8.30
1014	北部水産グループ	<p>【県漁協中津支店のカキ養殖関係者が種苗生産施設を視察】 (2021.7.2発信)</p> <p>養殖カキ「ひがた美人」の生産に取り組む県漁協中津支店の養殖関係者が当グループの種苗生産施設の視察に訪れました。人工種苗生産や養殖技術に関する活発な意見交換が行われました。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.7.30

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1008	北部水産グループ	<p>【大野川のアユ資源を増大させる方策を提言！】 (2021. 6. 30発信)</p> <p>当グループは2020年度に実施した大野川での調査結果に基づき、アユ資源を維持増大させる方策について、大野川漁協に提案しました。今後は漁協内部で検討することになりました。</p> <p>提案内容 ・アユ産卵場の造成適期 ・アユ産卵親魚の保護区域と保護期間 ・漁獲アユの由来判定</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2404	2021.7.26
1007	北部水産グループ	<p>【人工種苗アカモクの大規模増殖！】 (2021. 6. 28発信)</p> <p>アカモク資源の減少を危惧している大分県漁協香々地支店からの要望を受け、当グループは今年度も建材ブロック等に括着させた人工種苗アカモクを6月24日に香々地地先の水深3m前後の海底に設置しました。建材ブロック等には約172,600本の種苗(葉長:15mm)が括着しており、魚類等の食害防止のフェンスも施しました。来春の繁茂に期待です。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.7.26
1005	北部水産グループ	<p>【クルマエビの標識付けを実施しました！】 (2021. 6. 28発信)</p> <p>クルマエビの放流効果を調べるため、漁業関係者総勢24名により5cmサイズのクルマエビ1万尾に標識を装着しました。翌日、柵地先に被せ網を設置し、網内に標識クルマエビを収容後、食害に合わないよう潜砂した後に網を外して放流します。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.7.26
0983	北部水産グループ	<p>【キジハタの種苗生産を行うため親魚の生殖腺の状況を確認しました！】 (2021. 6. 11発信)</p> <p>産卵期が近づいたので、親魚の生殖孔から細い管を注入し、卵や精子を採取し調査しました。数は少ないものの成熟した個体も見られ、産卵が間近であることを確認しました。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.6.30
0982	北部水産グループ	<p>【スッポンの里で稚ガメ 続々誕生！】 (2021. 6. 11発信)</p> <p>養殖が盛んな宇佐市安心院町の養殖場では、6月1日からふ化が始まりました。4月中旬に産卵した卵を孵化器を使って40～60日かけてふ化させた稚ガメ(10g)が続々と誕生しています。温泉を利用した養殖で来年の冬には出荷サイズの800gまで成長します。</p>	 <p>ふ化日:6月7日</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.6.30
0942	北部水産グループ	<p>【標識クルマエビの放流を実施しました！】 (2021. 5. 20発信)</p> <p>5月18日、クルマエビの移動や成長を調べるため、豊後高田市真玉地先で眼に標識を装着したクルマエビを放流しました。標識の脱落が極めて少なく、認識しやすいので漁業者からの再捕報告に期待がもてます。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.6.11
0934	北部水産グループ	<p>【管内の内水面漁協 アユ漁解禁！】 (2021. 5. 17発信)</p> <p>管内8漁協のアユ漁の解禁日が近づきました。</p> <p>5月20日～ 日田、玖珠郡漁協 6月1日～ 大分川、大野川漁協 6月10日～ 山国川漁協 6月20日～ 駅館川、宇佐山郷淡水漁協 6月26日～ 津江漁協</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.6.30
0932	北部水産グループ	<p>【安心院のスッポン 産卵始まる】 (2021. 5. 13発信)</p> <p>スッポン養殖が盛んな宇佐市安心院町では、スッポンの産卵が、昨年より1週間ほど早い4月14日から始まっています。「有限会社安心院すっぽんセンター」では、早ければ6月上旬には稚ガメが誕生します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.5.28

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限																						
0923	北部水産グループ	<p>【養殖ヒジキの収穫 始まりました】 (2021.5.6発信)</p> <p>県内各地先で養殖されているヒジキの収穫が始まりました。当グループは収穫状況調査を行っています。</p> <table border="0"> <tr> <td>養殖地区</td> <td>収穫予定日</td> </tr> <tr> <td>宇佐支店</td> <td>5月3日</td> </tr> <tr> <td>くにさき支店</td> <td>5月10日</td> </tr> <tr> <td>富来地区</td> <td>5月下旬</td> </tr> <tr> <td>国東地区</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>武蔵支店</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>安岐支店</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>別府支店</td> <td>4月13日</td> </tr> </table>	養殖地区	収穫予定日	宇佐支店	5月3日	くにさき支店	5月10日	富来地区	5月下旬	国東地区	同上	武蔵支店	同上	安岐支店	同上	別府支店	4月13日	 <p>宇佐市長洲地先の干潟で養殖されたヒジキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.5.28						
養殖地区	収穫予定日																											
宇佐支店	5月3日																											
くにさき支店	5月10日																											
富来地区	5月下旬																											
国東地区	同上																											
武蔵支店	同上																											
安岐支店	同上																											
別府支店	4月13日																											
0914	北部水産グループ	<p>【マガキ養殖に取り組む佐伯の生産者が天然採苗技術習得のため来所！】 (R3.4.26発信)</p> <p>佐伯市の鶴見地域シングルシード養殖協議会の生産者4名の方がマガキの天然採苗技術等の勉強のため来所しました。担当研究員の説明に熱心に耳を傾け、活発な意見交換が行われました。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.5.16																						
0911	北部水産グループ	<p>【高級二枚貝タイラギの養殖試験開始！】 (2021.4.21発信)</p> <p>4月21日、姫島地先でタイラギの養殖試験を開始しました。殻長13cmの貝を被覆網で保護し、商品サイズ（殻長20cm以上）まで成長、生残を追跡し、養殖の可能性を探ります。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2021.5.10																						
0898	北部水産グループ	<p>【アカモク種苗生産 開始！】 (2021.4.9発信)</p> <p>昨年度に続き、大分県漁協香々地支店からの要望に基づき藻場増殖の規模拡大を目指して、アカモクの種苗生産を開始しました。今年度は人工種苗を括着させる基質として、建材ブロック、ホタテ貝殻、種糸、ノリ網およびフロアマットを用いました。人工種苗が活着した各基質を5~7月に香々地地先に設置する予定です。</p>	 <p>建材ブロックに括着した人工種苗アカモク</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.4.30																						
0894	北部水産グループ	<p>【河川漁協が稚アユを放流しています！】 (2020.4.2発信)</p> <p>当グループ管内の河川漁協では、アユの増殖を目的にアユの稚魚を放流しています。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>放流尾数 (サイズ)</td> </tr> <tr> <td>山国川漁協</td> <td>3/30~ 概ね2万尾 (10cm)</td> </tr> <tr> <td>駅館川漁協</td> <td>4/10~ 5万尾 (7cm)</td> </tr> <tr> <td>宇佐山郷淡水漁協</td> <td>4/20~ 1.4万尾 (7cm)</td> </tr> <tr> <td>桂川漁協</td> <td>4月下旬 未定</td> </tr> <tr> <td>玖珠郡漁協</td> <td>4/2~ 0.8万尾 (6cm)</td> </tr> <tr> <td>日田漁協</td> <td>3/10~ 100万尾 (6cm)</td> </tr> <tr> <td>津江漁協</td> <td>3/28~ 4.4万尾 (5cm)</td> </tr> <tr> <td>大分川漁協</td> <td>3/17~ 26万尾 (7cm)</td> </tr> <tr> <td>鶴崎漁協</td> <td>4/7~ 0.4万尾 (8cm)</td> </tr> <tr> <td>大野川漁協</td> <td>3/24~ 30万尾 (10cm)</td> </tr> </table>		放流尾数 (サイズ)	山国川漁協	3/30~ 概ね2万尾 (10cm)	駅館川漁協	4/10~ 5万尾 (7cm)	宇佐山郷淡水漁協	4/20~ 1.4万尾 (7cm)	桂川漁協	4月下旬 未定	玖珠郡漁協	4/2~ 0.8万尾 (6cm)	日田漁協	3/10~ 100万尾 (6cm)	津江漁協	3/28~ 4.4万尾 (5cm)	大分川漁協	3/17~ 26万尾 (7cm)	鶴崎漁協	4/7~ 0.4万尾 (8cm)	大野川漁協	3/24~ 30万尾 (10cm)	 <p>山国川漁協の放流状況</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.4.30
	放流尾数 (サイズ)																											
山国川漁協	3/30~ 概ね2万尾 (10cm)																											
駅館川漁協	4/10~ 5万尾 (7cm)																											
宇佐山郷淡水漁協	4/20~ 1.4万尾 (7cm)																											
桂川漁協	4月下旬 未定																											
玖珠郡漁協	4/2~ 0.8万尾 (6cm)																											
日田漁協	3/10~ 100万尾 (6cm)																											
津江漁協	3/28~ 4.4万尾 (5cm)																											
大分川漁協	3/17~ 26万尾 (7cm)																											
鶴崎漁協	4/7~ 0.4万尾 (8cm)																											
大野川漁協	3/24~ 30万尾 (10cm)																											
0893	北部水産グループ	<p>【人工種苗カジメ・クロメを海面育苗中！】 (2021.4.1発信)</p> <p>県内各地で藻場の減少が報告され、大分県漁協姫島および保戸島支店から藻場の再生を要請されました。当グループでは令和2年12月にカジメとクロメの種苗生産に着手し、3月から各支店の漁港内で育苗中です。人工種苗の葉長が5cm以上に生長する5月に藻場へ展開し増殖活動を進めます。</p>	 <p>漁港内で海面育苗中のカジメ種苗</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.4.30																						
0892	北部水産グループ	<p>【人工種苗アカモクの繁茂を確認！】 (2021.4.1発信)</p> <p>アカモクの人工種苗を活着させた建材ブロック8基を令和2年7月に香々地地先の藻場に設置し、3月には1ブロックあたり5本程度のアカモクが繁茂するとともに成熟個体も確認することができました。今年度は規模を拡大して漁礁に人工種苗を設置する計画です。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.4.30																						

農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
0891	北部水産グループ	<p>【ヒジキ漁が始まりました！】(2021.4.1発信)</p> <p>国東半島沿海の大分県漁協各支では、天然ヒジキの採取が始まりました。</p> <p>採取期間</p> <p>香々地支店 3月26日～未定 国見支店 4月11日～4月30日 姫島支店 3月29日～4月28日(期間中、大潮のみ) くにしき支店 4月9日～5月2日 武蔵支店 4月9日～未定 安岐支店 4月12日～5月13日</p>	 <p>満開の桜と天日干しヒジキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.4.30
0890	北部水産グループ	<p>【アユの遡上状況を調査中！】(2021.4.1発信)</p> <p>アユは秋に川で産卵し、ふ化した稚魚は海に下って越冬、春に川を遡上する魚です。大分県では1988年から大分川、大野川、番匠川でアユの遡上時期やふ化時期を継続的に調査し、過去と比較して時期に遅れがないかなど調査結果を迅速に漁協へ報告しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.4.30
0889	北部水産グループ	<p>【大野川にて遡上アユの汲み上げ放流を実施】(2021.4.1発信)</p> <p>海で成長した稚アユは春に川を遡上しますが、堰などの河川構造物に溯上を阻まれ、近年は溯上時期に十分な河川水量がないため、堰付近で滞留しカワウの被害も受けています。溯上アユの有効活用に向け、大野川漁協では滞留する稚アユを上流部へ移植放流し、当グループが技術指導の協力を行っています。</p> <p>採捕期間 4月1日～5月31日 採捕区域 大分市松岡の乙津川導水路取入口～戸次古川との合流点までの区域</p>	 <p>昨年の作業状況(滞留する稚アユ)</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2021.4.30



農林水産研究タイムリー情報

2022年7月1日時点

(合計375件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

⑩農林水産研究指導センター(計2件)

1133	センター本部 各研究部 グループ	<p>【大分県農林水産祭が開催されました】 (2021. 10. 20発信)</p> <p>2年ぶりに開催された大分県農林水産祭で、当センターの役割や研究成果のPRを行いました。花のオブジェやドローンの展示など、入りやすく興味あふれる展示コーナーを設置しました。特に原木しいたけの収穫体験や農林水産業相談コーナーも設置したことで子供から大人まで農林水産研究に触れてもらいうい機会となりました。</p>		農林水産研究指導 センター研究企画担当	0974-28- 2074	2021.11.12
1063	センター本部 水田農グループ 畜産研究部 林業研究部	<p>【「大分をつなぎ、つむぐキャリアフォーラム」にて 農林水産研究の魅力発信！】 (2021. 8. 10発信)</p> <p>高校生に地元就職を選択肢の一つとして考えてもらうため、大分市でキャリアフォーラムが開催されました。当センターも農林水産研究の魅力を発信するためセンターの業務概要の紹介や水稲の成分分析、牛の凍結精子の解凍・観察、木材の見学など各種実演も行いました。普段目にするものない測定機器などに高校生達は興味津々の様子でした。</p>		農林水産研究指導 センター研究企画担当	0974-28- 2074	2021.8.31